

对 照 表

きっかけは、子供の時に観た＜
アニメ番組だった
ほら、主人公の女の子が実は魔女でさ、＜
魔法を使って悪を懲らしめたり、＜
事件を解決したりするの・・・あれ見て＜
私もカッコいい魔女になりたいって、＜
思ったんだ。□

中学生の頃なんか＜
バリバリにハマっててさ、＜
呪文の本からファンタジーまで、＜
魔女とか魔法使いの出てくる本は＜
何でも読んで、勉強したんだから。＜
好きな男の子が出来た時も、＜
振り向いて欲しくて、＜
恋のおまじない、マジでやったもん。□

惚れ薬の作り方とかも載ってたんだけど＜
あれは、作れなかったな。＜
ユニコーンの角とかドラゴンの爪なんて＜
どうやって手に入れろっていうのよ。＜
やだ、笑い事じゃないよお、＜
私、本気だったんだからね。＜
今だって、諦めてないよ。□

だって、科学じゃ説明出来ない事って、＜
世の中にはいっぱいあるでしょ？＜
だから、私、信じてるの。＜
魔女も悪魔も神様も、きっといるって。＜
そう思った方が、楽しいじゃない。＜
不思議な話聞くのって、＜
胸がわくわくするもん。□

自分で魔法使えたら、＜
もっとわくわく出来るでしょ？＜
だから、私、きっといつか、＜
魔女になるの。＜
そして、素敵な魔法で、＜
みんなを幸せにするんだ。＜
それが、私の夢。□

その為には、なんか努力しなきゃ＜
いけないと思うんだけどさ。＜
何から始めたらいいのか、＜
判らなくて、そのまんま。＜
って言うか、＜
受験中はそれどころじゃなかったし。＜
大学決まって、一人暮らし始めた今、＜
やっと考える時間、出来たかな。□

四月は、オリエンテーションやら、＜
新入生歓迎コンパやらで＜
目が回るほど忙しかった。＜
もう大学生活に慣れるだけで精一杯。＜
でも魔法やら魔女の話を出来る場所は＜
みつけたから自分的にはOK。□

(1) 今、や＜／挿入
や／削除

(2) 改行→改ページ

(3) 場所は→場所を

本 文	変更点
「SF研究会」というサークルでね、◁ 剣と魔法のヒロイックファンタジー有り◁ UFO研究に、アニメの科学的考証、◁ 怪獣ファン、タロット占い、◁ 風水に陰陽道と、とにかく何でもあり。◁ もちろん、◁ 正統派のハードSFファンもいるよ。□	(4) 有り→あり
「国文科一年の藤峰マイです。◁ ○魔法と魔女が大好きで、 ○特技はルーン文字の読み書きです」◁ 自己紹介したら、今年の一年は◁ 本格的だってウケてしまった。◁ てへへ。◁ ルミちゃんて言う友達も出来たんだ。□	(5) ○魔法と魔女が大好きで、特技は◁/挿入 ○特技はルーン文字の読み書きです」◁/削除 (6) □ 改行→改ページ □ 一行で改ページ
彼女は私の夢、笑わずに聞いてくれた◁ 初めての人。◁ 夢を持ちつづけるのは素敵な事ね、って◁ にっこり微笑んでくれた。◁ イイコだよね。◁ 偶然だけどおんなじクラスでラッキー。□	
うちの高校から◁ ここに進学したのは私だけだし、◁ 友達を作るのは苦手だから、◁ ほんと、助かった。◁ ルミちゃんちは漢方薬局で、◁ 子供の頃から薬草に囲まれて◁ 育ったんだって。□	
二人が力を合わせれば、ホレ薬だって◁ 作れるねって、その話だけで一日が◁ 終わった事もあるんだよ。◁ 共通の話題で盛り上げられる◁ 友達がいるのって、ほんと、素敵よね。□	
おまけにルミちゃんはテキパキしてて、◁ クラスでも人気者なの。◁ 引っ込み思案な私が◁ なんとかクラスに溶け込めたのも◁ 彼女のお陰かな。◁ ほんと、感謝してる。□	
やっと学生生活に慣れて、落ち着いたたら◁ 5月が終わりかけてた。◁ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○◁ その日は、午後の講義がいきなり◁ 休講になって、めずらしく早い時間に◁ 帰宅した。□	(7A) 改行→改ページ (7B) 5月→五月
日射しは初夏というより、もう夏本番◁ って感じだった。 自転車通学の悲しさ、アパートに◁ 着く頃にはTシャツが汗ばんで、◁ 気持ち悪いったら、ありゃしない。◁ アパートの横手の申し訳程度に◁	(8) って感じだった。自転車通学の悲しさ、◁ (390) アパート→マンション (9A) アパート→マンション (9B) 申し訳程度に/削除

本 文	変更点
底のついた自転車置場まで来て、＜ その陰に入った時は、ほっとした。□ いつもの場所に自転車をつけて、＜ 盗難よけのチェーンを巻こうと＜ しゃがんだ私の目の隅で何かが動いた。＜ ぎくっとして、身体がこわばる。＜ 私は息を止めて、自分の足元に＜ ゆっくりと視線を落とした。□ セメントで固めた地面の、＜ ちょうど底の影が終わるところに、＜ 黒っぽくてひらひらしたものが＜ 落ちていた。□ 木の葉？＜ ううん、風がないのに動いてる。＜ ・・・生き物？＜ よく見ると紫色で、自分の意思をもって＜ フニャフニャ動いてる！＜ なんかの幼虫？＜ 全身に鳥肌がたって、＜ 反射的に跳びのいてしまった。□ やだ、怖い。＜ 虫、大嫌いなのに。＜ でも、虫にしては動きが変だし。＜ ほんとに、なんなんだろう？＜ 判らないとずっと怖いままだもん、＜ それも困る。□ 泣きそうになるのをこらえて、＜ じっと見つめてたら、＜ なんだか、判った。＜ あ、コウモリ！＜ ひらひらして見えたのは羽だったんだ。＜ でも、ほんと？□ どう見ても、これ、＜ モンシロチョウより小さいよ・・・＜ そんなコウモリ、いたっけ？＜ 私、＜ 目がおかしくなっちゃったのかなぁ。＜ 怖かったのも忘れて、私はもう一度＜ しゃがみ込んで、目を凝らした。□ うん、やっぱりコウモリさんだ！＜ 間違いない。＜ うわぁ、こんなに近くで見るの、＜ 初めてだよ。＜ 本物のコウモリってこんなに小さいの？＜ こんなミニサイズ、飛んでても、＜ チョウかがにしか見えないよ、絶対。□ ・・・あれ？＜ でもなんで、飛ばないんだろ？＜ 足元のそいつは、どう見ても、＜	(391) <u>底</u>のついた→<u>屋根</u>がついた (10) 地面の、→<u>地面に</u>、 (11) 一行削除 (12) <u>なんか</u>→<u>何か</u> (13) <u>なん</u>なんだろう？→<u>何</u>なんだろう？ (14) <u>なんだ</u>か、→<u>何</u>だか、 (15) 私、→私・・・ (16) <u>なんで</u>→<u>何</u>で

本 文	変更点
もがいてる。＜ きっとケガして飛べないんだ。＜ 可哀想・・・おうちに帰れないんだね。□	
手足をバタバタさせながら、そいつは＜ 少しずつ移動して、とうとう日なたに＜ 転がり出てしまった。＜ コウモリって＜ 光に弱いんじゃないかって。＜ 日射病になっちゃうよ。□	(17A) 移動して、→移動している。 (17B) 一行削除 (18) 次行に〔こんな暑いところにいたら、＜〕挿入
あ、ダメだよ、そっちはダメ！＜ コウモリが転がる様に這っていく先の、＜ すぐそこには、＜ 鉄製のマンホールの蓋があった。＜ 熱いよ！ヤケドしちゃうよ！＜ そっち行ったら、バーベキューに＜ なっちゃうよお～。□	
地面が傾斜してるのか、動く度に＜ 鉄板の方へどんどん近づいていく。＜ 見たくないのに、目が離せない。＜ ダメだったら～っ！＜ あんた、こんなに小さいんだから、＜ ひとたまりもないよ。＜ 死んじゃうよ！＜ 死ぬとこなんか見たくないよ。□	
〔分岐1〕 A. 私はその場を逃げだした。＜ B. 私はとっさにコウモリを＜ 拾い上げた。□ 〔★分岐1／Bのみ続く〕	
〔分岐1／B〕 私はとっさにコウモリを拾い上げた。＜ いつもの私なら、怖くって＜ 触れなかったと思う。＜ でも、その時は必死で、＜ 気持ち悪いとか汚いとか、＜ 全然、考えもしなかった。＜ ただ、助けなきゃって、それだけ。□	(19) 改行→改ページ
だから、手のひらにすくい上げてから、＜ 自分の行動にびっくりしちゃった。＜ うっわぁあ～、＜ コウモリ触っちゃったよお。＜ コウモリだ、コウモリだ、＜ コウモリだぁ！□	(20) うっわぁ<u>あ</u>～→うっわぁ～ [あ] 削除
私は手の中のコウモリに話しかけた。＜ 「あんた、あぶないトコだったんだよ、＜ ○バカだね。もうちょっとで死んじゃう＜ ○とこだったんだから・・・」＜ 突然つまみ上げられて驚いたのか、＜ そいつは、おとなしく＜ うずくまっていた。□	(21) 話しかけた→話し<u>掛</u>けた (22A) <u>あぶ</u>ない→<u>危</u>ない (22B) だよ、→<u>だよ。</u> (23) <u>つま</u>み→<u>摘</u>み

本文	変更点
このまま日陰に置いといてもいいけど、＜ きっと野良猫やカラスに＜ やられちゃうよね。＜ 飛べなくて、＜ ケガしてるかも知れないのに。＜ 私が見捨てたら、＜ 死んじゃうに決まってる。□	
・・・折角、助けたのに。＜ 手のひらのコウモリは＜ まだじっとしている。＜ その軽さ、儚さが、＜ たまらなくいじらしい。＜ ほっとけなくなって、＜ 私はそいつを連れて帰る決心をした。□	
善は急げだ。＜ 私はアパートの階段を＜ いっきに駆け上がった。＜ 6帖一間の私の城へ、＜ ようこそ！コウモリさん。□	(24) アパート→マンション (25) 6帖一間の→ようこそ！
ドアを開けると、いきなり＜ 畳とテーブルが目飛び込んでくる、＜ こじんまりした部屋に、＜ 息を切らせて飛び込んだ。＜ べたん、と部屋の真ん中に座り込んで、＜ やっと落ちつく。＜ 私は手のひらのコウモリを＜ まじまじと見た。□	(26A) [ドアを開け、見慣れた部屋に、＜] [息を切らせて飛び込んだ。□] に改竄 [このマンションは、私のおじ夫婦のマン] / 6行挿入 [ション。□] [おじ夫婦が海外に赴任になった為、＜] [留守の間、私が借りている。＜] [私には勿体無いくらいの超リッチな＜] [お部屋。□]
体長2センチ弱、＜ 『小指の先ほど』って言うけど、＜ まさに文字通りの大きさだわ。＜ なのに、そいつは確かに生きていた。＜ ウニョウニョと動く度に、＜ それが手のひらに微かに伝わって＜ くすぐったい。＜ うふっ。□	(26B) 落ちつく。→落ち着く。 (26C) 改行→改ページ
紫にも黒にも見える肌は、ツルツルで＜ みずみずしくって、キャラメルの＜ オマケに入ってるゴム人形みたい。＜ そうっとつまんで翼をひろげてみたら、＜ 小さいなりにちゃんと＜ 手足の指が揃ってて、ちょっと感動。＜ 生き物ってすごい。□	(27) つまんで→摘んで
紫色の皮膜を通して華奢な骨格が＜ 透けて見えてとっても綺麗。＜ 縮尺が違うけど翼の形は悪魔そのもの、＜ 昔の人はこれ参考にして、想像したん＜ だろな。□	(28) そのもの、→そのもの。
そのくせ顔は可愛いんだよね。＜ お世辞にもつぶらとは言えない＜ 点の様な目が、＜ 思い切り離れてついてるんだもん、＜ 笑えちゃう。＜	

本 文	変更点
でも、これ、◁ ほとんど見えてないんだろぅなぁ。◁ 確か、昼間は寝てるんだっけ？□	
夕方の空をひらひら飛んでるのは◁ 見た事あるけど、◁ それ以外の時ってどこにいるのかなぁ。◁ やだ、私ったら、何にもコウモリの事、◁ 知らないや。◁ 何食べるんだろ？◁ 考えてみたら、◁ 私って何も動物飼った事なかったんだ。	(29) 改行→改ページ
どうしよう。◁ 「カピカピカピ」◁ 手のひらのそいつは、◁ 密やかに鳴き始めた。□	
これって、エサ、◁ 要求してるんだろぅな。◁ 頭の中に、ヒナが押し合いへし合い◁ エサを待ってる◁ ツバメの巣が思い浮かんだ。□	(30) 次行に「カピカピカピ」挿入
うわぁ、私、◁ 「親」やらなきゃいけないのね。◁ うわぁ、うわぁ〜。◁ 責任重大だぁ。□	(31) 勉強机兼ちゃぶ台にしている◁→削除 それに伴い改行位置変更
私は、勉強机兼ちゃぶ台にしている◁ テーブルの上にティッシュをひろげて、◁ ひとまずそこにコウモリを置いた。◁ えっと、なんか箱なかったかな。◁ 部屋の中を見回してみる。□	(32) <u>なんか</u> → <u>何か</u>
テレビと小さな冷蔵庫、◁ 部屋の一面を占める食器棚兼本棚、◁ 以上、終わり。◁ 住み始めてまだ2カ月とは言え、◁ 殺風景過ぎる。 女の子の部屋とは思えないよね。◁ 私、◁ あんまり物をとっとかないからなぁ。□	(33A) 6行削除
・・・押入れの中も◁ 布団と服しか入ってない、か。◁ 空き箱はあきらめよう。◁ 食器棚の引出しの中をあさったら、◁ ジャムと紅茶の入った箱が出てきた。◁ これで、いいや。◁ 箱の中にティッシュを何枚も敷きつめて◁ そこにコウモリを移した。□	(33B) それらしいものは何もない。◁／挿入 (34A) 私、あんまり物をとっとかないから／改行位置変更 (34B) なぁ。□→なぁ・・・□
相変わらずしめやかな声で◁ 「カピカピ・・・」言ってる。◁ あん、判ったから、ちょっと待ってて、◁ あんたが何食べるか調べるんだから。□	(35) <u>あきらめよう</u> → <u>諦めよう</u>

本 文	変更点
ドラキュラ映画に出てくるコウモリは、△ 人間の血を吸うけど、△ 日本に吸血コウモリはいないはずだし△ ・・・だって、そんなのいたら、△ ニュースになってるよね、たぶん。△ うーん、そだ！□	(36) 出て<u>く</u>る→出て<u>来</u>る (37) 改行→改ページ
〔分岐2〕 A. まだ辞典は見てなかったんだ。△ B. 動物園の人にきいてみよう。△ C. ルミちゃんに相談してみよう。□ 〔★A. B. を選ぶと選択肢が減り、C. へ〕	
〔分岐2／合流点〕 〔分岐2／C〕 ルミちゃんに相談してみよう。△ RRRRRRRR・・・△ 「はい、三原です。」△ 「あ、ルミちゃん？やっほ～、△ ○マイだよん。ちょっとSOSなの」△ 私はかいつまんで経緯を説明した。□	(38) かいつ<u>ま</u>んで→かい<u>摘</u>んで
「あはっ、マイちゃんらしいわね。△ ○普通コウモリなんか、△ ○拾ってこないよォ」△ 電話の向こうでルミちゃんが△ 苦笑してる顔が見える。□	
「でも、困ったね、△ ○うちは犬なら飼ってるけど、△ ○そんなの参考にならないし・・・△ ○動物病院だって、△ ○ペットが専門でしょう？」△ 「だから、困ってるんだってばぁ」△ しばらく二人で考えた。□	
「ねえ、マイちゃん、△ ○上川君知ってるよね？」△ 「うん、うちのクラスの子だよ。△ ○あのハニワ顔のいかつい子でしょ？△ ○いかにも体育会系って感じの」□	(39) いか<u>つ</u>い→イカ<u>ツ</u>イ
「そうそう。△ ○でもあのコ、生物部なんだよ。△ ○だから、もしかして、あのコなら△ ○知ってるんじゃないかしら。△ ○ね、きいてみたら？」△ 「え、でも、私、直接話した事ないよ。△ ○いきなり掛けたらヘンじゃない？」□	
「だ～いじょうぶ！△ ○そんな事気にするコじゃないから。△ ○良く言えば育ちがよくて鷹揚、△ ○悪く言えば大雑把だから、△ ○気にしないって」△ 「でもお・・・」□	

本 文	変更点
「友達の友達は友達だって」< ○言うじゃない。< ○さっ、掛けた、掛けた！」< ルミちゃんは上川君の電話番号を告げて< さっさと電話を切ってしまった。< えーっ！< やっぱり自分で電話しないと< ダメ・・・かな？でも・・・。□	(40) 改行→改ページ
箱の中をのぞくと、コウモリは< さっきより心持ち< ぐったりしている気がする。< あぁ、迷ってるヒマなんかない、< これしか方法がないんだもん、< 掛けなきゃ。< 私は必死の思いで、< 番号をプッシュした。□	(41) のぞく→覗く (42) 改行→改ページ
RRRRRRRRR・・・ガシャッ<	(43) ガシャッ→SEで表現
「はい」< 「あの、上川さんのお宅でしょうか？」< 「そうですが、どなたですか？」< どう答えようか迷ってたら、< 緊張して声がウラ返った。< 「あの、その、藤峰と申しますが、< ○コウタさん、いらっしゃいますか？」□	(44) 改行→改ページ
「僕ですが・・・藤峰さん？」< 訝しげな声が答える。< わお、いきなり本人がでちゃったよお。< 私、こういうの苦手なんだってば。□	(45A) 改行→改ページ (45B) 一行削除
「あの、同じ大学の藤峰マイです」< 私はルミちゃんの紹介であること、< コウモリを拾ったことを< しどろもどろになりながら、< 一所懸命に説明した。< どう聞いたってアヤシイ電話である。< なのに、彼は辛抱強く相槌を打って、< 最後まで話に付き合ってくれた。□	(46) あること→ある事 (47) ことを→事を
「それで、藤峰さんが知りたいのは、< ○コウモリが何を食べるのか、< ○なんだね？」< 「ええ」< 「そうだな・・・うん？そのコウモリ、< ○毛が生えてないんだっけ？」< 「ええ、ツルツルというかプニョプニョ< ○というか、そんな感じです」□	
「くっ・・・プニョプニョ・・・」< 「え？」< 「いや、失礼。ええと、そのコウモリは< ○まず間違いなく赤ん坊だな。< ○じゃあ、ミルクだ」□	
赤ちゃん！<	

本 文	変更点
そっか、小さくてツルツルなのは< 赤ちゃんだから・・・< なんで気がつかなかったんだろ、< 私ってバカ。< 「あの牛乳でもいいんですか？」< 恐る恐る私は確認した。□ 「大丈夫。ただ、冷蔵庫から出したての< ○冷たいのは、やめた方がいいな。< ○とにかくやってみて、< ○僕もすぐ行くから」< えーっ！来てくれるの！上川君て、< とってもイイ人かも知れない。< さすがはルミちゃんのお友達だわ。□ アパートの住所を告げて< 電話を切った私は、< 近所のコンビニに走った。< もちろん、ミルクを買うために。< レジで支払いをしながら、< ふと我にかえた。□ あれ？私、お礼言っていないよ。< いきなり電話をかけて、< 聞きたいこときいて、< 教えて貰ったのに！< 何もお礼言わずに、電話切っちゃった。< うわっちゃん、< 失礼なヤツだと思われてるんだろなあ。< しくしく。□ いつもこんなよね、私。< 前しか見てないっていうか、< 一つの事しか出来ないっていうか。< あん、< こんなところでブルー入ってちゃダメだわ< 早く戻らないと。< 相変わらず照りつける日差しの中へと< 私は走りだした。□ 公園の角を曲がると、< アパートはすぐそこ。< 息を切らせて階段を駆け上がったら、< ドアの前に人が立ってた。< 上川君だ！< 「やあ」□ 「あ、ごめんなさい、< ○牛乳切らしちゃってて< ○今、コンビニ行ってたの。< ○待った？」< 慌てて、言った。< 「いや、ノックしたんだけど、< ○返事がないから、< ○どうしようかと思って・・・」□ 「暑いのに、ほんと、ごめんなさい。<	(48) <u>なんで</u>→<u>何</u>で (49) あの→あの、<u>　</u> (50) <u>やめた</u>→<u>止めた</u> (51) 改行→改ページ (52) 来てくれるの！→来てくれるの！<u>　</u>？ (53) <u>アパート</u>→<u>マンション</u> (54A) <u>ために</u>→<u>為に</u> (54B) 改行→改ページ (55) <u>かけて</u>→<u>掛けて</u> (56) <u>きいて</u>→<u>聞いて</u> (イ) <u>貰</u>った (57A) <u>　</u>→<u>！</u> (57B) 改行→改ページ (58A) <u>アパート</u>→<u>マンション</u> (58B) 改行→改ページ (ロ) [ノックしたんだけど、] が残っている

本 文	変更点
○どうぞ、あがって下さい」＜ 精一杯すまなそうな顔をして、＜ 私はドアをあけた。＜ 上川君、部屋に入るなり、＜ 良かった中は涼しいんだ、と呟いた。□ 「え？」＜ 「うん、今日は暑いだろ？コウモリの＜ ○赤ん坊大丈夫かなと思って。＜ ○なるべく風通しがよくって、＜ ○涼しいところがいいんだ」□ 「あの、これ、おうちにしたんだけど」＜ 私は箱を見せた。＜ 「上出来だ。あとは蓋にちょっと＜ ○空気穴をあけた方がいいかな。＜ ○これが、コウモリの赤ん坊か、＜ ○初めて見た」□ テーブルの前にどっかりと胡座を組んで＜ 上川君、手のひらにつまみあげた＜ コウモリを熱心に観察しはじめた。＜ 「ちょっと衰弱してるようだけど、＜ ○どこもケガはしてないようだね。」＜ 「ミルクあげたら、＜ ○元気になるかしら？」□ 私は牛乳のパックをビニール袋から＜ 出して、テーブルの上に置いた。＜ パックには水滴がいっぱい付いている。＜ 「温めた方がいいんですか？」＜ 「いや、お皿にちょっと出したら＜ ○すぐに室温になるよ。＜ ○そんなに沢山は飲まないしね」＜ なるほど。□ 私は景品で貰った小皿に牛乳を注いだ。＜ 「問題は、どうやって飲ませるか、＜ ○だな」＜ コウモリから顔を挙げて、＜ 真顔で彼は言った。＜ 「人間の赤ん坊でも＜ ○哺乳瓶を使うだろ？」□ 確かに、その通りだ。＜ 身体がボールペンのキャップより＜ 小さいんだから、＜ 口の大きさも推して知るべし。＜ 一所懸命開けたところで、＜ ゴマ粒よりは大きく開かないんだもん。＜ お皿で舐めさせたら、＜ 溺れちゃうに決まってる。□ 「コウモリ用の哺乳瓶なんて、＜ ○ない・・・ですよ？」＜ 「あはは、在ったら楽なだけだね。＜ ○ネズミならスポイトでやれるんだけど＜	(59A) <u>あ</u>げた→<u>開</u>けた (59B) 改行→改ページ (60) 「良かった中は涼しいんだ」と呟いた。 ★「」を付け、地の文から科白に改竄 (61) 改行→改ページ (62A) <u>あ</u>げた→<u>開</u>けた (62B) 改行→改ページ (63) 改ページ→改行 (64) <u>つまみ</u>あげた→<u>摘み</u>上げた (ハ) <u>胡座</u> (65A) <u>はじめ</u>た→<u>始</u>めた (65B) 改行→改ページ (66) <u>よう</u>→<u>様</u> (67) <u>よう</u>→<u>様</u> (68) 改行→改ページ (ニ) 貰った (69) <u>挙</u>げて→<u>上</u>げて (70) <u>在</u>ったら→<u>あ</u>ったら

本 文	変更点
○こいつは小さ過ぎる」＜ スポイトの中にコウモリの顔が＜ 全部入っちゃいそうだもんね、＜ そりゃマズい。□	
彼はちょっと困った顔で、＜ 首を横に振った。＜ 「専門的な道具は、注文しないと＜ ○手に入らないんだ。間に合わない」＜ 「そんな。じゃあ、＜ ○ミルクあげられないってこと？」＜ 私は泣きそうな声で、尋ねた。□	(71) 改行→改ページ (72) 改行→改ページ (73) <u>こと</u>→<u>事</u>
「二人で考えたら、＜ ○きっと何か方法を思いつけるよ。＜ ○藤峰さん、一緒に考えよう」＜ うん、私一人だったら、＜ パニックしてるだけで、＜ 考えることも思いつかなかったと思う。＜ そう、考えなきゃ。□	(74) <u>こと</u>→<u>事</u>
うーん、そうだ！＜ 「あのね、指につけてあげるって＜ ○いうのはどうかしら？」＜ 「やってみよう」＜ 私は、お皿のミルクを＜ 指先に垂らしてみた。＜ 白い玉が指先に出来て、＜ ぷるぷる震えている。□	(75) 改行→改ページ
これなら吸えるかも？＜ コウモリの顔に近づけてみた。＜ 指を動かしただけで、牛乳の玉は＜ 滑り落ちちゃって、＜ うまく、口に入らない。＜ 「何か、ミルクを含ませられる物が＜ ○あればいいんだよな」＜ ぽつり、と彼が言った。□	(76) 改行→改ページ (77) だよな」→だよな・・・」 (78) [彼は少し考えた。＜] に改竄 (79) [そして・・・□] 一行挿入
〔分岐3〕 A. 「ティッシュは？」＜ B. 「コットンは？」□	(80) [と、言った。] 挿入（発言者が変わる）
〔分岐3／B〕 「コットンは？」＜ 「綿？どんなの？」＜ 私は救急箱から薄いコットンを＜ 出してみせた。＜ 「いや、これだと顔全体に＜ ○ひっついちゃうよ、ダメだな」□	(81) 選択肢と重複の為削除
〔分岐3／合流点〕 「もっと先の細いものはない？」＜ ミルクを含ませられて、先が細いもの？＜ うーん、うーん、必死で考えた。□	(82) うーん、うーん・・・必死で考えた。＜ (83) [あっ！！□] 一行挿入
〔分岐4〕	(84) [ふと、私は思いついた。＜] 分岐に一行挿入

本文	変更点
A. 「綿棒なら、いけるかも？」◁ B. 「爪楊枝でなんとかならない◁ ○○○かなあ？」□ 〔★A. を選ぶとA. を読んだ後B. へ続く〕 〔分岐4／B〕 「爪楊枝でなんとかならないかなあ？」◁ 「そうだね、指よりはずっと細いから、◁ ○もしかすると・・・」◁ 私は食器棚から爪楊枝を取り出して、◁ 小皿に浸けてみた。◁ ダメ、ちっともミルクが付かない。□ 「ちょっと貸して」◁ 上川君はいきなり爪楊枝を◁ 奥歯で噛みしめた。◁ 「これならどうだ」◁ 噛み潰した楊枝の先をミルクに浸すと、◁ 今度はちゃんとミルクが付いた！□ それを受け取ってコウモリの口許に◁ 持っていくと、一所懸命に吸い始めた。◁ 飲んだ！ちゃんと飲んでるよぉ！◁ 良かった。◁ 「やったぁ～♡、上川君すごいよ！」◁ 「いや、二人で考えたからだよ。◁ ○僕は爪楊枝なんて◁ ○思いつかなかった」□ 「じゃあ、共同作業の勝利だね。◁ ○ほら、こんなに飲んでる。◁ ○見て見て」◁ よっぽどお腹を空かせてみたい。◁ 爪楊枝を往復させた回数なんて◁ 忘れてしまうほど長い間、◁ コウモリはミルクを飲んだ。□ 「お腹壊さないかな？」◁ 心配になって、上川君にきいてみた。◁ 「欲しいだけやればいいよ。◁ ○胃袋もそんなに大きくないしね。◁ ○満腹したら飲まなくなる」◁ そっか、そんなもんなんだ。◁ 安心しちゃった。□ 「こうやって、生きる為に◁ ○努力する姿を見るのは、いいね。」◁ 上川君がしみじみと言った。◁ 目が輝いてて、いい表情。◁ 「うん、健気だよね◁ ・・・うふ、可愛い」□ 爪楊枝の先を吸わないと思ったら、◁ 寝てる。◁ 人間の赤ちゃんと一緒にだ。◁ 従兄弟のお姉さんとこの子供も、◁ 哺乳瓶加えたまま、寝てたもん。◁	(85A) 〔「あっ、そうだ。爪楊枝でなんとかなら◁ 〔ないかなあ？」◁〕／挿入 (85B) 〔私は思いついた。◁〕 一行挿入 (86) 次行に、〔コウタ君は言う。□〕 一行挿入 ↑★この時点では不可能な呼称 (87) 改行→改ページ (88) <u>いく</u>→<u>行く</u> (89) 改行→改ページ (90A) ♡→！ (90B) だよ。◁→だよ！」◁ (91) 二行削除 □ 〔じゃあ、共同作業の勝利だね。〕□□ 挿入 (92) だね。◁→だね」□ (93) <u>きいて</u>→<u>聞いて</u> (94) いいね。」→いいね」正しい校正

本 文	変更点
「寝たか・・・そういや、こいつ、＜ ○名前は？」＜ 「え？あ、まだ付けてなかった」□ 拾ってからこっち、＜ それどころじゃなかったんだっけ。＜ 「飼うのなら、＜ ○ちゃんと付けてやった方がいいよ」＜ 「うん、そうだね、＜ ○えっと・・・そだ、カピにしよう」＜ 「カピ？」＜ 「あのね、カピカピ鳴くからカピなの」□ 「くくっ・・・面白いね、＜ ○藤峰さんて、やっぱり面白いよ」＜ 「やっぱりって？」＜ 「いや、さっき電話でコウモリが＜ ○『プニョプニョ』してるって＜ ○言ってただろ？いいな、と思って」＜ 「・・・面白いかな？」□ 褒められてる気はしないけど、＜ 悪気がないのは判る。＜ 「で、こいつがカピなら＜ ○僕の場合はコウタでいいよ。＜ ○友達はみんなそう呼んでる」＜ 「友達・・・？じゃあ、私も＜ ○藤峰さんじゃなくて、マイでいいよ。＜ ○カピの恩人さんだもん」□ うん、この人ほんとに親身になって＜ カピの事考えてくれたもんね、＜ 友達だ。＜ ルミちゃんがいいコだって言ったの、＜ 判る。□ 「それじゃ、ちゃんと授乳出来る様に＜ ○なったことだし、僕は帰る。＜ ○あ、3～4時間で、又＜ ○腹を空かせるから、＜ ○忘れずにやるんだよ」＜ 「うん、判った」□ 「明日にでも、コウモリの生態を＜ ○詳しく調べておくよ。＜ ○ちょうど、クラブの例会もあるから。＜ ○じゃあね。」＜ 上川君、いやコウタ君は＜ 言うことだけ言うとか＜ さっさと帰っていった。□ 気さくない人・・・確かにちょっと＜ 大雑把かも知れないけど。＜ 本当に生き物が好きなのはよく判った。＜ あんなに真剣に＜ 一緒に悩んでくれる人って＜	(95) 改行→改ページ (96) <u>こと</u>→事 (97) <u>こと</u>→事 (98) <u>いった</u>→<u>行った</u>

本 文	変更点
そうザラにはいないと思う。□	
後ろ姿を見送ってて、思い出した。＜ あん、私ったら、＜ まだありがとうって言ってないよ。＜ お茶さえ出してないじゃない。＜ 二人ともカピのことしか＜ 考えてなかったんだ・・・＜ ふふっ、他人の事は言えないよね。□	(99) まだ→まだ、 (100) <u>こと</u> → <u>事</u>
よおし、明日こそ、＜ ちゃんとお礼を言うんだから。＜ 夕焼け空に誓いを立てて、＜ 私はカピのところへ戻った。□	
カピは牛乳をよく飲んだ。＜ と言っても、＜ 身体の大きさの割りにって事で、＜ 小皿の牛乳は＜ ほとんど目減りしないんだけど。＜ 三角パックでも飲みきるのに、＜ 一ヵ月はかかっちゃいそう。□	
爪楊枝を口許に持っていった時の、＜ 懸命に吸う、その仕種が可愛い。＜ せっせっとミルクと与えていると、＜ まだ毛の生えてないツルツルのお腹が＜ おくんとふくらんでくるのが判る。＜ 薄い皮を通してミルクが＜ 白く透けて見えてきたら、満腹らしい。□	
カピ、お前、赤ちゃんだったんだ・・・＜ だから、そんなにちっちゃいのか。＜ そうだよな、＜ 夕方に飛んでるコウモリって、＜ もっと大きいもの。＜ 沢山ミルクを飲んだら、きっとお前も＜ あんなふうに大きくなるし、＜ パタパタと飛べる様になるよ。□	(101) <u>ふう</u> → <u>風</u>
それまで、一緒に暮らそう。＜ 「聞いてる、カピ？」＜ あれ？動かないや。＜ 羽のちっちゃな鉤爪を器用にひっかけて＜ 人指し指の先で眠ってしまったらしい。＜ もう、現金なヤツ。＜ 可愛いから許しちゃうけどさ。□	(102) 改行→改ページ
体調が悪そうなのが気になるけど、＜ それもきっとなんとかしたげるからね。＜ 私はカピをそっと箱の中に戻して、＜ 蓋をした。＜ 空気穴もちゃんとあけてある、大丈夫。＜ おやすみ、カピ。□	(103) <u>なんとか</u> → <u>何とか</u>
その夜は、枕元に箱を置いて＜ 寝ることにした。＜	(104) <u>こと</u> → <u>事</u>

本文	変更点
コウモリさんと一緒に部屋で寝るなんて＜ ドラキュラか魔女みたい。＜ あ……。＜ そうだよ、＜ 魔女ってコウモリを家来にしてるんだ。＜ 『遣い魔（つかいま）』ってやつ！□	
遣い魔は、魔女の言葉が判るの。＜ それで、魔女に命令されたら、＜ 偵察に行ったり、薬草を取ってきたり、＜ いろいろ働く便利な家来なのよね。＜ 銀狼とか、蛇とか、猫とか、トカゲとか＜ うん、コウモリも魔女の家来になれる＜ 動物の一つだわ。□	
子供の時に、＜ 魔女には黒猫がつきものなのよ、って＜ お母さんにねだったことも＜ あったんだっけ。＜ 忘れてた。＜ 「マイが大人になったら、＜ ○自分の家で飼いなさい」＜ そう言われたんだ。□	(105) <u>こと</u> → <u>事</u>
ふふん、私もいっぱしの大学生、＜ もう大人よ。＜ カピを立派に育て上げて、＜ ちゃんと世話できるってとこ、＜ みせちゃうゾ。＜ お母さん、驚くだろうなあ……。＜ なんせコウモリだもん。＜ 魔女の夢、一步前進だ。□	(106) <u>みせ</u>ちゃう→<u>見せ</u>ちゃう (107) <u>なん</u>せ→<u>何</u>せ
なんだか嬉しくなって、＜ わくわくしながら眠りについた。＜ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○＜ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○＜ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○＜ ピッピッピッピッピッピッピッピッ……。＜ うあ……。ん？……。あれ？＜ 真っ暗……。□	(108A) <u>なんか</u>→<u>何</u>だか (108B) <u>改行</u>→<u>改ページ</u> (109) 空白指示無視（3行）
目覚まし時計のベルを止めた。＜ 午前3時……。なんで？……。あ、＜ ミルクの時間！＜ そっか、4時間たったんだ。＜ うう、眠い。□	(110) <u>改行</u>→<u>改ページ</u> (111) <u>なんで</u>→<u>何</u>で
寝ぼけまなこで冷蔵庫から＜ 牛乳のパックを出し、小皿に入れた。＜ カピちゃん、ご飯だよん。＜ ミルクをあげるのもこれで4度目、＜ 手慣れてきたかな。＜ 夢中でミルクを飲んでるカピに＜ 優しく話しかけた。□	(112) <u>4度</u>→<u>四</u>度 (113) <u>かけた</u>→<u>掛</u>けた
「カピ、私ね、＜	

本 文	変更点
○魔女になりたいって思ってるんだ。◁ ○だからさ、私の遣い魔になってよ。◁ ○ねえ、いいでしょ？◁ ○きっと出会ったのも運命だって。◁ ○私の夢に付き合ってよ。◁ ○一緒に頑張ろうね、カピ。」□ 翌日は、自主休講。◁ 必須科目はなかったし、カピのことが◁ 心配で登校する気になれなかったのだ。◁ それに睡眠時間は足りてるけど、◁ まとめて寝ないと、◁ なんか寝た気がしないし。◁ 今日はおとなしくカピの世話をして、◁ 家にいた方がいいよね。□ ミルクはちゃんと飲むけど、カピ、◁ やっぱり元気がない・・・◁ 気のせいかな？◁ それともコウモリの赤ちゃんって、◁ みんなこんな風なのかなあ？◁ ・・・わかんない！◁ もっとコウモリのこと、◁ 調べなくっちゃ。□ 実家から持ってきた本も調べてみた。◁ 遣い魔との契約の仕方や◁ 呪文は載ってるんだけど、◁ これじゃ、役に立てようもない。◁ 本屋さん行っても、◁ 「コウモリの飼い方」なんて本、◁ ないだろうな。◁ ・・・そうだ、図書館はどうだろ？□ コウモリの生態とか詳しいこと、◁ ちゃんとした図鑑になら◁ 載ってるかも知れない。◁ マイちゃん、グッドアイディア！◁ イケてるう！□ 午前中の授乳を済ませてから、◁ 近くの図書館まで出掛けてみよう。◁ 自転車で片道15分、これなら◁ 3時間以内に帰ってこれるはず。◁ おとなしく待っててね、カピちゃん。□ 外に出たら、眩しいほどの上天気。◁ 風があるから、そんなに暑く感じない。◁ この辺、周りに田んぼが多くって、◁ けっこう風通しがいいのかも知れない。◁ 欠伸を噛み殺しながらペダルを漕いで◁ 私は駅向こうの図書館へと急いだ。□ 繁華街をぬけて坂道を登っていくと◁ 消防署があり、その隣が目指す図書館。◁ 喉が乾いたので、缶ジュースを買って、◁ 一気に飲み干した。◁	(114) <u>こと</u>→<u>事</u> (115) <u>なんか</u>→<u>何か</u> (116) <u>わかんない</u>→<u>判んない</u> (117) <u>こと</u>→<u>事</u> (118) <u>こと</u>→<u>事</u> (119) 改行→改ページ (120) 二行削除 (121) <u>欠伸</u>→<u>アクビ</u> (122) <u>いく</u>→<u>行く</u>

自転車じゃこの坂道キツイわ、ふう。＜
一息ついてから＜
図書館のロビーへ向かう。□

中に入ると、クーラーが涼しくて＜
助かった。＜
人影もまばらな館内を歩き回って、＜
コウモリ関係の本を探したら、＜
小説や探検本ばかりで、＜
み～んなハズレ。□

実用書のコーナーも覗いてみたけど、＜
思った通り、『コウモリの飼い方』＜
なんて置いてない。＜
そりゃ、そうよねえ。＜
・・・無駄足だったかなあ。＜
まてよ、まだ図鑑は見てないや。＜
辞典と図鑑の棚に行って、＜
動物図鑑を手にとってみた。□

後ろの索引じゃ、＜
どこに載ってるのか判らなかった。＜
だって、ちゃんとした和名順で引く様に＜
なってるんだもん、困るよ。＜
それがわかんないから、＜
調べにきたのにさ。＜
仕方ない、目次を最初から見よう。□

・・・哺乳綱、翼手目？あ、これ。＜
うんうん、ミルク飲むんだもん、＜
哺乳類に決まってる。＜
オオコウモリと小型のコウモリに＜
大別されてて、主食は、オオコウモリが＜
果実食、特殊なものは生き血、魚、＜
花の蜜！・・・小型のは昆虫か。＜
カピはどっちだろ？□

(123) 改行→改ページ

オオコウモリならいいな。＜
ジャムつきパンにビスケット、ミルクに＜
果汁がエサなんて、楽しいじゃない。＜
ドキドキしながら分布図をみたら、＜
日本にはいない事が判った。＜
そっかあ、一緒にティータイム＜
出来ないんだ。＜
ちょっと残念。□

本州にいるのは、＜
小型のコウモリだけかあ。＜
じゃあ、カピは＜
小型のコウモリさんの一族なんだ。□

・・・蚊を沢山とって食べる事から＜
『かほふり（蚊を殺すものの意）』が＜
名前の語源と言われている？＜
蚊が主食なんだ、ふーん。＜
飛べる様になったら、＜
蚊とり線香の代わりになってもらえて、＜

本 文	変更点
それもいいかな。□ コウモリの事が書いてあるページは< 退屈だったけど、全部読んでみた。< なのに、世話の仕方は判んないまま。< ため息ついちゃうよ、もう。< 図鑑のコピーをとったら、帰ろう。< 知識が増えただけでも、< よしとしなくっちゃね。< 帰り道は下り坂の分だけ、楽だった。□	(124) 改行→改ページ
昼間のカピはとってもおとなしい。< 昨日の夜は箱の中でカサカサ動いてる< 音がしてたのに、それもない。< 夜行性だから寝てるんだな。< 赤ちゃんは自分の力でお母さんの< お腹につかまってるって、< 図鑑に書いてあったなあ。□	
と、いうことは、< カピは風かなんかに吹かれて、< 自転車置場に落っこっちゃった< ってことよね。< カピったら、どんくさいヤツ。< くすくす。< 私に拾われた事を< 感謝して貰わないとね。□	(125A) <u>いう</u>→<u>言う</u> (125B) <u>こと</u>→<u>事</u> (126) <u>こと</u>→<u>事</u>
次の授乳は4時か・・・< ちょっと私もお昼寝しちゃおう。< ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○< 「ごめんください」< ノックの音がしてる。< ・・・へ？・・・誰？< 寝ばけまなこで、ドアを開けた。< わっ、コウタ君！□	(127A) 改行→改ページ (127B) 改行→改ページ (128) 一行削除／チャイムのSEに変更 (129A) 改行→改ページ (129B) 改行→改ページ
一気に目が覚めた。< 今日も来てくれるって言ってたんだ、< しまった。< 「はいはい、あの、ちょっと待ってね」< コウタ君には悪いけど、< この状況は見せられないよ。□	
外で待っててもらって、急いで< 枕とタオルケットを押入れにしまい、< 時計をみたら4時を回っていた。< しまった！寝過ぎしちゃった。< 「カピの具合はどう？< ○変わりはないかい？」< 入ってくるなり、コウタ君、< 挨拶も抜きで、私に尋ねた。□	(130) 改行→改ページ
ずっと気に掛けてくれてたのが< よく判る。< 嬉しいなあ。< 「うん、ミルクはちゃんと飲むし、<	(131) 改行→改ページ

本文	変更点
○それ以外は何にも。＜ ○ちょうど今、ミルクやろうと＜ ○思ったとこなの」＜ 感謝を込めて微笑む。□	
「じゃあ、僕の事なんか気にせずに＜ ○ミルクやってよ。＜ ○僕の調べてきた事は、＜ ○やりながら聞いてくれたらいいから」＜ コウタ君、目をそらして返事をした。＜ なんだか困ってるみたい。＜ 声のテンションも、＜ 昨日より低いかな。□	(132) <u>なんだか</u> → <u>何</u> だか
でも、これが普通なのかもしれない。＜ 普段のコウタ君がどんなかなんて、＜ 友達になりたてだもん、＜ 判んないや。＜ 思い過ごし・・・だよね？□	(133) <u>どんなかなんて</u> → <u>どんなか</u> 、 <u>なんて</u> (134) [<u>困ってる様にみえるけど、</u>] 一行挿入
「私もちょっと調べてみたの。見て」＜ 図鑑のコピーをコウタ君に渡して、＜ 私はカピにミルクを与え始めた。＜ 「板についてきたね」＜ コピーから顔をあげたコウタ君が、＜ 感心してくれる。□	(135) <u>あげた</u> → <u>上げた</u>
「へへ、まあね。＜ ○起きてる時は3時間おき、寝る時も＜ ○4時間おきにあげてたから。＜ ○もうおまかせって感じ？」＜ 「そりゃ頼もしい。でも疲れるだろ？」＜ ○さっきも眠そうだったよ」＜ それまで眠りこけてた、なんて＜ 言えないよねえ。□	
うー、恥ずかしい。＜ 自分で顔が赤くなってるのが判ったけど＜ コウタ君、気づいてない・・・よね？＜ カピのこと、ずっと見てたもん。＜ きっと、大丈夫。ほっ。□	(136) <u>こと</u> → <u>事</u>
「この図鑑にもある通り、コウモリは＜ ○雨樋の中とか木のうろなんかに＜ ○巣を作ってるから、僕たちにはカピを＜ ○元の所に戻してやる手段がない」＜ コピーを読みながらコウタ君は＜ 淡々と説明を始める。＜ おとなしく話をききながら、＜ 私はせっせとカピにミルクをやった。□	(137) <u>僕たち</u> → <u>僕達</u>
「・・・それで」＜ そこまで言って、コウタ君は＜ 口をつぐんだ。＜ 「え？何？」＜ 「うん、ペットショップでバイトしてる＜ ○先輩に相談したら、今はミルクを＜ ○飲ませて体力をつけさせるしか＜	(138) 改行→改ページ (139) <u>ききながら</u> → <u>聞きながら</u>

○ないだろうって」□

「そっかあ。じゃあ、＜
○このままミルクやってていいのね。＜
○実は牛乳じゃ育たない、とか＜
○言われたらどうしようって、＜
○それだけ気になってたの」＜
カピを箱に戻そうとして、＜
私は、はたと思い出した。□

「あの、これ、ちょっと見てくれる？」＜
私は箱の中のティッシュを＜
コウタ君に示した。＜
昨日から、＜
来たら聞こうと思ってたんだ。＜
「あ、フンだね。＜
○ミルクしか飲んでないんだし、＜
○こんなもんだ。問題ないと思うよ」□

ティッシュのシミを眺めてコウタ君、＜
断言してくれた。＜
良かったあ。＜
コウタ君に、これでいい、って＜
言って貰えると、とっても安心する。＜
お父さんみたい……。□

(140) 貰える→もらえる

「カピ、良かったね。＜
○どんどんミルク飲んで＜
○どんどん出して、＜
○早く元気になってね。＜
○飛べる様になったら、＜
○蚊を沢山取って、恩返しするんだよ」＜
心配事がなくなった私は、＜
浮かれた調子でカピに言い聞かせた。□

コウタ君、横で軽く咳払いをしている。＜
ティッシュを取り替えながら、＜
ちらっと横目で見たら、＜
腕組みして考え込んでた。＜
どうしたんだろ？＜
難しい顔して。□

コウタ君、真面目そうだからなあ。＜
私の言ったこと、＜
マジに受け取ったのかな。＜
変なコだと思われちゃったかも。＜
ここで、冗談です、って言うのも＜
気まずいし。□

(141) こと→事

あーん、空気が重いよ。＜
コウタ君がだまっちゃうと、私、＜
なに話していいか、わかんないよ。□

(142A) なに→何

(142B) わかんない→判んない

「・・・その事なんだけど・・・」＜
やっと口、開いてくれた。＜
「どの事？」＜
「あ、いや、もうちょっと育ったら＜

本 文	変更点
○・・・ミルクにハチミツやバナナを< ○ほんの少し混ぜてやるといいらしい< あれ？なんか、ヘンな間。< 話をそらされた様な気がする。□	(143) <u>なんか</u> → <u>何か</u>
でも話の腰を折ったら、もう会話が< 続きそうにないし・・・いいや、< このまま話題に乗っちゃえ。< 「そっかバナナは栄養あるもんね、昔< ○入院した時、毎朝バナナ付いてたよ」< 「入院？」< 「ちょっとバイクで事故っちゃって、< ○二週間ほど入院してた事あるの」□	(144) 事あるの→事 <u>が</u> あるの
カピを箱に戻しながら< 私は素直に応えた。< 「へえ、意外だな。マイちゃんて< ○家の中で本を読んでも< ○文学少女かと思ってた」□	
「それは誤解というものです。< ○私、キャンプとか好きだもん。< ○けっこうアウトドア指向なんだから。< ○バイクはお兄ちゃんに< ○よく乗せて貰ったから、< ○乗り方覚えてただけなんだけどね」□	(145) <u>いう</u> → <u>言う</u>
「キャンプも行くの？< ○女の子なのにめずらしいね。< ○僕も生物部からよく行くけど、< ○女子部員で参加する子は少ないよ。< ○で、今までにどこ行ったの？」□	
キャンプとバイクの話題で< 一気に盛り上がって、< 気がついたら普通におしゃべりしてた。< さっきの気詰まりが嘘みたい。< 話すことがなくて困ってたのは< 誰だっけ？< 幾らでも話せちゃうよ。□	
いつのまにか西日が差し込んで、< 部屋の中が赤くなってきた。< 「「もう、こんな時間？」」< 二人同時に時計をのぞきこみ、< 同じ言葉を発して、< 笑いころげてしまった。< コウタ君っていいヤツ！< 話も合うけど、気も合うみたい。□	(146A) <u>のぞき</u> → <u>覗き</u> (146B) <u>こみ</u> → <u>込み</u>
・・・今なら、きけるかな。< 雰囲気もバッチグーだし。< さっきの『間』、< やっぱり気になってる。< なんだったんだろ？< 「あのさ、本当のこと言ってね。< ○さっき、何いいかけたの？<	(147) <u>なん</u> → <u>何</u> (148) <u>こと</u> → <u>事</u> (149A) <u>いい</u> → <u>言い</u> (149B) <u>かけ</u> → <u>掛け</u>

本 文	変更点
○バナナで誤魔化したでしょ」□ 「・・・やっぱり気づいてたか。」＜ 「コウタ君、全部顔にでるから＜ ○判りやすいんだよ。＜ ○ねえ、ちゃんと言って。＜ ○気になるから」＜ 彼は困った時のクセなのか、＜ ぼりぼりと鼻の頭を搔いて苦笑いした。□ 「つまり、だ。そのうちカピにも＜ ○離乳期がくるって事を＜ ○言いたかっただけなんだ」＜ 「離乳期？それがどうかしたの？」＜ 「・・・その時が来たら、教えるよ。＜ ○約束する」□ コウタ君の太い眉がきりり、と＜ 引き締まり、線の様に細い目に、＜ これ以上何も言わないぞ、という＜ 決意が見えた。＜ コウタ君が約束守る人なのは＜ 間違いない。□ それに、あの優しそうな瞳で＜ 真っ直ぐ見つめられたら、＜ これ以上聞けないよ、降参。□ 「うん、判った。約束、ね」＜ とにかく、何かあったら＜ いつでも電話して、と言いつ残して、＜ コウタ君は帰っていった。＜ 二階の廊下からその後ろ姿を見送って、＜ 私は手すりにもたれかかった。□ 見上げると、夕暮れの空をコウモリが＜ 飛び交っている。＜ この中にカピの家族もいるのかなぁ？□ 翌日からしばらく、＜ 自主休講を続ける事にした。＜ カピ、大学に連れてけないもんね。＜ ミルクの時間を考えると、行ってる暇、＜ ないし。＜ なにより、ずっとそばで＜ 見守っててあげたいって、そう思った。□ 私、兄弟はいるけど末っ子だし、＜ ペットも飼った事ないから、＜ 何かの世話をするなんて初めて。＜ それだけでも新鮮でわくわくするのにさ＜ カピったら、可愛い。□ ミルクを飲んで満腹すると、＜ 手のひらから腕をちょっとずつ＜ 這い上がってきてさ、タンクトップの＜ 肩紐にぶら下がって寝るんだよ。＜	(150) <u>くる</u>→<u>来る</u> (151) <u>いった</u>→<u>行った</u> (152) 「コウタ君の後ろ姿を見送り、何気なく＜」 「夕暮れの空を見上げると、そこには＜」 「コウモリが飛び交っている。＜」に改竄 ★5行を3行にまとめている (153A) <u>なに</u>→<u>何</u> (153B) <u>そば</u>→<u>側</u>

本 文	変更点
ね？可愛いでしょ！！＜ あれ、本能ね、逆さまにつかまるの。＜ きっと私のこと、＜ お母さんだと思ってる。□ なつかれるのが、こんなに＜ 気持ちのいい事だなんて知らなかった。□ 3日ほどたった頃、夕方だったかな、＜ 部屋の壁にもたれて寛いでたら、＜ いきなり思い出した。＜ 「あ〜っ、連絡！学校休んでるのに、＜ ○私、誰にもしてないや」＜ ありゃりゃ。□ 〔分岐5〕 A. コウタ君に電話しなくっちゃ。＜ B. ルミちゃんに、電話、電話。＜ C. 先輩に電話しよう。□ 〔分岐5／A〕 コウタ君に電話しなくっちゃ。＜ 「もしもし、上川さんのお宅ですか？」＜ 「やあ、マイちゃん。＜ ○カピの様子はどうか？」＜ 相変わらず、＜ いきなり本題に入っちゃう人だな。＜ さっぱりしてて話し易いから、＜ 慣れると気にならないけどね。□ カピの様子を話すと、＜ 「そうか、順調なようだね。＜ ○今のところ僕に出来ることは＜ ○なさそうだ。じゃあ」＜ それだけ言って、切ってしまった。□ 前言撤回。＜ コウタ君って、さっぱりしてるけど、＜ せっかち過ぎる。＜ もうちょっとお話したかったのに・・・□ 〔分岐5／合流点〕 そんな事よりも、今はカピの世話だわ。＜ そろそろミルクの時間だもんね。＜ カピが済んだら、＜ 自分の夕食も用意しなくっちゃ。□ こうやって、＜ 私はカピとなんとか暮らし始めた。＜ 外出は買い物とお風呂ぐらいで、＜ 後はほとんど丸一日つきっきり。＜ 別に何か看病するってわけじゃ＜ ないけど、見ていて飽きないんだよね、＜ 動物って。□ 知ってる？＜ コウモリの羽はね、羽に見えてるけど、＜	(154) <u>こと</u>→<u>事</u> (155) <u>3日</u>→<u>三日</u> (156A) もたれて→もたれて、 (156B) 寛いで→くつろいで (157) 選択肢と重複の為一行削除 (158) 改行→改ページ (159) <u>よう</u>→<u>様</u> (160) <u>こと</u>→<u>事</u> (161) <u>なんとか</u>→<u>何とか</u> (162) とお風呂／削除 後は／挿入 後は／削除

本 文	変更点
あれ、実は手なの。◁ 手の指の間に、薄い膜が張ってるのよ。◁ 水かきと、おんなじだよ。◁ 羽の先の小さな鉤爪が親指。◁ それ以外の指の骨は、むちゃくちゃ長く◁ 伸びてて、それで羽の様に見えるわけ。□	(163) 改行→改ページ
それに、足と尾っぽの間にも小さな膜が◁ あって、お正月に揚げる凧そっくり。◁ ん？あっちがコウモリを◁ お手本にしたのかな。□	
そっと潰さないように羽を摘んでみた。◁ ぴんっと拵けても、◁ 電車の切符くらいしかない。◁ 突風吹いたら、飛ばされて◁ どっかいっちゃいそう。◁ なんて、ちっぽけで、◁ か弱い生き物なんだろう……。□	(164) よう→様 (165) 拵→広 (166) なんて→何て
「早く大きくなって、◁ ○その羽で見事に羽ばたいてね」◁ 眠っているカビに、そうささやくのが◁ 私の日課となった。□	
家に籠もっている間に訪ねてきたのは、◁ 宅急便のオジサンだけだった。◁ 実家からの荷物は、◁ 夏物の服と蚊取り線香。◁ お母さんったら、気が早いなあ。◁ まだ、梅雨入り宣言さえ◁ 出てないのにさ。□	
お礼は、ハガキで出しとこう。◁ 学校行ってないのがバレたら、◁ ヤブヘビになっちゃうもん、◁ 電話はパス。◁ 親不孝な娘でごめんね、お母さん。◁ 実家の方角にべこん、と頭を下げた。□	
ルミちゃんからは、◁ 時々電話が掛かってきた。◁ カビの事をいっぱい話せて、嬉しい。◁ 話題はカビがどんな風に◁ 可愛いかってこと。◁ 親バカならぬ『カピバカ』だと言われて◁ ショ〜ック。□	(167) こと→事
言い返せない……。だって超絶可愛いと◁ 思ってるもん、仕方ないや。□	
学校の方はルミちゃんのお陰で◁ 万事OK。◁ 出席カードを代理で書いてくれてるから◁ 体育以外は休みになってないんだって。◁ おんなじクラスって◁ こういう時に便利よね。◁	(168) いう→言う

本文	変更点
助かっちゃった。□	
ずっと家にいると平穩無事な様に思う＜ けど、私の場合、そうでもないみたい。＜ 気が緩んで、ポカやっちゃうのよね。＜ その日はいつものように＜ カピにミルクやって、＜ その後カピの身体測定をやったのね。＜ 物差しあてたら、ほんの少しだけど、＜ 大きくなってたの。□	
育ってるんだよ、ちゃんと。＜ 嬉しくなっちゃって、いつもより＜ いっぱいかまってしまった。＜ 肩紐にぶら下がって眠る姿を、＜ 壁にもたれて見守っているうちに、＜ いつのまにか眠っちゃったのが＜ マズかった。□	
気がついて、肩を見たら、いない。＜ カピがいなくなっちゃった！＜ 嘘！＜ ……もしかして、私、＜ 押し潰しちゃった？＜ おそろおそろ立ち上がった。□	
良かった、いない。＜ いや、良くない、いないのは困る。＜ あ～ん、どうしよう。＜ 待て、私。＜ まだ頭が起きてない。＜ 落ちつかないきゃ。□	(169) 落ち <u>つ</u> かなきゃ→落ち <u>着</u> かなきゃ
〔分岐6〕 A. 私は、もう一度座り込んで＜ 深呼吸した。＜ B. 私は、立ち上がったまま、＜ 深呼吸した。□	
〔分岐6／B〕 私は、立ち上がったまま、深呼吸した。＜ まず、落ちつかないと。＜ ……ふう……。＜ 3回深呼吸を繰り返して、＜ やっと少し、冷静になった。＜ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○＜ タタミの上にはいない。＜ テーブルの上にもいない。□	(170) 選択肢と重複の為一行削除 (171) 落ち<u>つ</u>かない→落ち<u>着</u>かない (172) <u>3</u>→<u>三</u> (173) 指示無視 (174) [床にもいない。]に改竄
第一、カピはツルツルしたところ、＜ 登れないんだよね。＜ 冷蔵庫の下も懐中電灯で照らしてみた。＜ ……いない。＜ テレビの下も、カーテンの裏にも＜ いない。＜ もしかして、いきなり飛べる様に＜ なったのかな？□	

本文	変更点
私は背伸びして、食器棚の上も調べた。＜ やっぱりない。＜ こんな狭い部屋なのに、＜ どこに消えちゃったっていうの？＜ もう一度やりなおし。＜ きっと見落としてる場所が＜ あるはずなんだから。□	(ホ) マンションに統一するなら削除される部分
同じところを何度も捜して、最後には、＜ いないのは判ってるのに、＜ 押入れや冷蔵庫の中まで覗いてみた。＜ どうしよう、もうミルクの時間＜ 過ぎてるよ。＜ 早く見つけてあげないと、＜ 餓死しちゃう。＜ カピい、どこにいっちゃったのよお。□	
もうどうしていいか判らなくなって、＜ 私は元の場所に座り込んだ。＜ 自分のため息が、＜ やけに大きく聞こえる。＜ その時、＜ 「カピカピカピカピカピ・・・」＜ 聞き慣れたカピの声！！＜ カピ、やっぱりいたのね！□	
耳を澄ませて音源をたどってみると、＜ なんと、電話機の黒いコードの裏側に＜ へばりついてる。＜ そっかあ、＜ コードを這い上がってたのか。＜ 何回も電話機見たけど、＜ 気がつかなかった。□	(175) 次行に「カピカピカピカピカピ・・・」挿入
・・・これって、私が慌てん坊って＜ ことよね？＜ コウタ君やユリちゃんには＜ 内緒にしとこう。＜ 私は、カピを手のひらに回収して、＜ そっと指でこずいた。＜ このイタズラ者、心配したんだから！□	(176) <u>こと</u> → <u>事</u> (177) <u>ユリ</u> → <u>ルミ</u> ／ 正しい校正
〔分岐6／合流点〕 カピは何事もなかった様に、＜ 無心にミルクを飲んだ。＜ こっちの気も知らないで、気楽よね。＜ 大騒ぎした私がお間抜けなんだけどさ。□	
・・・でもね。＜ いなくなった時に自分がこんなに＜ 動揺すると思ってなかったな。＜ ここまで情が移るなんて、＜ 自分でも驚いてる。＜ そんな事もあったけど、まあ、カピは＜ すくすく育ってるんじゃないかな。□	
毛も生えて、顔つきがネズミの様に＜	

本 文	変更点
愛らしくなってきたと思うのは< 『カピバカ』の欲目ってヤツ？< ううん。< 誰が見ても、きっと可愛いよ。< 開き直りって言われたって、< 私のカピは可愛いんだからねっ！□	
或る朝、カピがミルクを< 飲まなくなった。< 正確には、飲む量が少なくなった、< だけどさ。□	
お腹こわしたの？< 箱の中に敷きつめた、< ティッシュを見てみた。< フンは、いつもと変わらない。< 違うなあ。< 見た目も元気そうだし、< ミルクだって新鮮。□	(178) <u>こわ</u> した→ <u>壊</u> した
私の手の甲をつたって無邪気に遊ぶ、< カピに問いかけた。< 毎日飲んでて、ミルクに飽きたの？< っーことは、もしかして……。< もしかして、離乳期？！< ちょっと、そんな、いきなり来るなんて< 私、なんも準備してないよぉ。< 準備、準備。<	(179) <u>なんも</u> → <u>何も</u>
コウモリの大人は蚊を食べるんだよね。< 蚊って、どこかで売ってない……。わ。< 自分で捕まえるしかないか。< こういうの、< ドロナワ的思考って言うのよね。< でも、蚊ってどこにいるんだろ？< ヤブ蚊は、竹ヤブ。□	(180) <u>コウモリの大人</u>→<u>大人の</u>コウモリ (181) <u>売ってない</u>……。わ → <u>売って</u>……。ないわ (182) <u>いう</u>→<u>言う</u>
でも、この辺は竹ヤブないのに、< 飛んでる。< 田んぼの草むら？< 行きたくないなあ。< だって、いろんな虫がいるんだもん。< バッタは噛まないの判ってるから、< まだいいけど、< 草むらって毛虫がいるでしょ？□	(へ) マンション近辺の田んぼ描写は削除されていたので、 統一をはかるならば、これも削除すべきでは？
子供の時、毛虫に刺されて、< それ以来かな、虫という虫は全部嫌い！< 蚊も嫌いだけど、あれは小さいから< 怖くはないの。< 殺虫剤かけたらコロっと死ぬし。□	(183) <u>いう</u> → <u>言う</u>
でも、カピのエサにする蚊には、< 使えないよねえ。< 無農薬野菜じゃないけどさ、< 殺虫剤ついた蚊なんて、< カピの身体には悪そうだもん。<	

本 文	変更点
ん？と、言うことは、手で捕まえなきゃ＜ いけないってこと？＜ 効率悪そう。□	(184) <u>こと</u> → <u>事</u> (185) <u>こと</u> → <u>事</u>
それより、どのくらいの量、＜ 食べるんだろ？＜ 網、買わなきゃ。＜ 難題、続出！＜ カピが飛べる様になってから＜ 離乳期が来ると思ってたのに、＜ とんだ計算違いだわ。＜ あ〜ん、カピ、いますぐ飛んでよ！！□	(186) <u>いま</u> → <u>今</u>
その時になって、＜ コウタ君の言葉を思い出した。＜ 「離乳期になったら教える」って、＜ コウタ君、こうゆう事態を＜ 予測してたのお？ だったら、早めに言っといってくれたら いいのに。＜ そうだ、忘れてた、連絡しなくちゃ。□	(187) <u>ゆう</u> → <u>言う</u>
〔分岐7〕 A. でも、まだ朝早いし、＜ 今掛けたら非常識だよね。＜ B. 早速掛けてみた。□	
〔分岐7／B〕 早速、掛けてみた。＜ RRRRRRRRRRRR・・・＜ 「はい、上川です」＜ 良かった、コウタ君の声だ。＜ 私はカピのミルクの量が＜ 少なくなっている事を話した。□	
「今からそっちへ行くよ。＜ ○ちょっと寄るところがあるから、＜ ○一時間後くらい。＜ ○大丈夫、おとなしく待っててくれ」＜ うん、待ってる。＜ コウタ君が来てくれたら、きっと、＜ なんとかしてくれるの判ってるもん。＜ なんて頼りになる人だろ。□	(188) <u>一時間</u> → <u>1時間</u> (189) <u>なんとか</u> → <u>何とか</u> (190) <u>なんて</u> → <u>何て</u>
電話を切って、＜ カピのおうちを覗き込んだ。＜ 箱の隅でおとなしくしている。＜ カピ、コウタ君来てくれるって。＜ 良かったねえ。＜ お前の大恩人さんだよ。□	
コウタ君がいなかったら、お前、＜ ここまで育てなかったかも＜ 知れないんだよ。＜ 感謝しなさい。□	
話しかけてると、耳元でぷ〜んと＜	(191) <u>かけてる</u> → <u>掛けてる</u>

本 文	変更点
小さな羽音がした。◁ パンッ◁ 手を開くと、蚊！！◁ ナ〜イスキャッチ！◁ ティッシュを捻げて蚊を置いた。◁ なんだ、簡単に取れちゃったよ、蚊。◁ あんなに悩んだのにね。□	(192) 改行→改ページ (193) <u>なんだ</u>→<u>何だ</u>
とりあえず、食べさせてみよう。◁ 流しで手を洗ってから、◁ ピンセットで蚊を摘み、◁ カピの口許に持っていった。◁ あれ？食べない。◁ ほら、蚊だよ、カピ。◁ 口の中に押し込んでみた。◁ なんで吐き出すかなあ、カピ？□	(194) <u>いった</u>→<u>行った</u> (195) <u>なんで</u>→<u>何で</u>
大きすぎるのか、固いのか、◁ どうしても食べない。◁ 困ったな、離乳期じゃなかったのかな。◁ 悩んでいると、コウタ君がやって来た。□	
〔分岐7／合流点〕 「どう思う？」◁ カピを観察しているコウタ君に◁ 私は尋ねた。◁ 「やはり、離乳期だ」◁ 「でも、蚊、食べなかったよ」◁ 「ああ、まだ子供だからね、◁ ○もっと柔らかいものでないと、◁ ○消化出来ないんだ」□	
なんだ、そうだったのか。◁ 私は蚊をティッシュにくるみ、◁ さっさとゴミ箱に捨てた。◁ 仮にもご飯を食べるちゃぶ台なんだから◁ 蚊の死骸なんか要らないのに、◁ のせときたくない。◁ その様子を見て、コウタ君、又◁ 鼻の頭をぼりぼり搔いた。□	(196) <u>なんだ</u>→<u>何だ</u> (ト) 前部では削除してあったのに？(ちゃぶ台部分) (197) <u>のせ</u>→<u>乗せ</u> (漢字にするなら、載せ)
「じゃあ、離乳食があるのね。◁ ○人間の赤ちゃんでも瓶詰の、◁ ○いろいろあるもんね」◁ 「そう。離乳食、なんだろうな・・・」◁ コウタ君、鞆からプラスチックケースを◁ 取り出して呟いた。◁ 「あ、持ってきてくれたんだ。◁ ○さすが、コウタ君。で、それ、何？」□	(392) 瓶詰の／以下に「商品」挿入 (393) <u>なんだろう</u>→<u>何だろう</u> (394) 改行→改ページ
「これはな・・・・・・ちょっと◁ ○覚悟してくれよ」□	
畳に持参した新聞紙を敷き、その上で◁ 蓋をあけると、何か粉がこぼれた。◁ 「経節？」◁ 「いや、それはオガ屑だ。よく見て」◁	(チ) 畳が残っている／削除は？

本 文	変更点
私は目を細めて、＜ ケースに顔を近づけた。＜ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜ ・・・・・・・・・・息が止まった。□	(198) 一行削除
ケースの中身は虫！＜ それも縮小コピーをかけたみたいに＜ 小さな芋虫が、くねくねと・・・＜ あ、もうダメ。＜ 見ただけでクラクラしてきた。＜ インスタントラーメンの袋を開けた時に＜ こぼれるカケラみたいって言ったら＜ 判る？□	(199) ・・・→・・・。
そんなのが、ぎっしり詰まっていたの。＜ 「これはミル・ウォーム。小鳥屋さんや＜ ○ペットショップで買える。＜ ○冷蔵庫で保管するんだ。＜ ○でないと、育ってしまうからね」＜ 自分の血がさぁぁと音をたてて＜ 引いていくのが判った。□	(200) <u>いく</u> → <u>行く</u>
恐怖も極限になると、声も出ないって、＜ ほんと。＜ 唇を噛みしめて硬直している私の横で、＜ コウタ君、黙々と作業を始めた。＜ 何？何始めるの？＜ 鞆から割り箸とピンセット取り出した。＜ それで何するつもり？□	(201) ピンセット [を] 挿入で段ズレ
固まったまま、＜ コウタ君の手元をみつめる。＜ ・・・うげっ・・・虫の皮、＜ 剥いてるよぉ！＜ 「こうやって、＜ ○柔らかい肉だけを与えるんだ。＜ ○よく見といて。これから毎日、＜ ○君がこれをやるんだよ」□	
私？＜ これやるの？＜ 毎日？＜ 吐きそうになるのを手で抑えて、＜ 弱々しく首を振った。＜ 「ダメ・・・こんな事、出来ないよ！」＜ 目がうるんで、涙がこぼれる。□	
「カピを育てたいんだろ？＜ ○カピの親は君だ。君がやるしかない。＜ ○それとも、＜ ○僕が引き取って帰ろうか？」＜ コウタ君のバカ！＜ どうして私を追い詰めるのよ。＜ そんな事言われたって・・・困る。＜ 出来ないもん。□	
無理だよ、そんなこと。＜	(202) <u>こと</u> → <u>事</u>

本 文	変更点
でも、カピと離れるのは嫌だし……。< コウタ君、何も言わずに< じっとこっちを見てる。< どうしよう。< カピを拾ってきたのは、私。< 私が親代わりするって、< 自分で決めたんだ。□	
「出来るね？」< コウタ君が諭すように言った。< 細いけど優しそうな目。□	
〔分岐 8〕 A. 「うん、判った、< ○○○やってみる……。< B. 「ダメ……。私、出来ないよ」□	(203) 〔と、私は呆然としながら言った。〕挿入
〔分岐 8 / A〕 「うん、判った、やってみる……。< 私は呆然としながら言った。< 「よし」< にっこり笑って、コウタ君、いきなり< 私の頭をくしゃくしゃって、< 撫でてくれた。< びっくりしたけど、嬉しかった。< なんか、元気もらったみたい。□	(204) <u>なんか</u> → <u>何か</u>
「すぐ慣れるよ、大丈夫」< うん、私、頑張ってみる。< コウタ君が、大丈夫、って言ってくれた< 時は、ほんとにそうなんだから。< こっちからも連絡するよ、と言いついて< コウタくんは帰って行った。□	
〔分岐 8 / 合流点〕 私は軍手をはめた。< 部屋の中で作業するのは、畳の上でも、< 新聞紙を敷いても、気持ち悪い。< だから、アパートの廊下に< 「エサやりセット」とカピのおうちを< 運び出した。< これで、準備は完了。□	(リ) 畳の上でも、→削除されていないのは何故？ (205) <u>アパートの廊下</u> → <u>マンションのベランダ</u>
目の前のケースを見下ろして、< ため息をついた。< 私、本当に出来るのかな。< 小学校の鮎の解剖も、中学の蛙の解剖も< 逃げ出したんだよね。□	(206) <u>鮎</u> → <u>フナ</u> <u>蛙</u> → <u>カエル</u> 変更に伴い行ズレ
あの時は、班の子がやってくれたけど、< 今度は逃げだすわけにはいかない。< だって。< カピの命がかかってるんだもん。□	
軍手だと滑って、ケースの蓋が< なかなか開かない。< あせっちゃダメ。<	

本 文	変更点
ゆっくりやらないと< 中身ぶちまけちゃう。< 落ちつくのよ、マイ。□	(207) 落ちつく→落ち着く
・・・開いたぁ。< そっとケースを下に置く。< 右手に持ったピンセットを< オガ屑の中に突っ込んだ。< ピンセットの先には、マッチ棒ほどの< 太さしかない何かの幼虫。< 摘まれて驚いたのか、挟まれたまま、< 身体をよじらせる。□	(208) 一行削除
ひiiiiい気持ち悪い!!< びくっびくっと虫がもがいてる。< その動きがピンセットを伝わってきて、< 思わず取り落としそうになる。< おぞぞぞぞぞ。< 首筋から肩にかけて< 鳥肌が立っていくのが< 自分でよく判った。□	(209) <u>いく</u>→行く
どおして動くのよお。< おとなしく、しててよお。< 新聞紙の上に一度虫を置いて、< 黒い斑点のある頭の方から< 摘みなおした。< 左手に割り箸をもって、< 身体を押さえようとしたけど、< うまくいかない。□	
ウニョウニョと右へ左へ身体をふって、< 割り箸にまとわりついてしまう。< ちょっとお、あんたエサなんだから、< 動かないでよお、おねがいっ!< 半ベソかきながら、なんとか虫の身体を< 割り箸で押さえ込み、< 懸命にピンセットで引っ張ったら、< ぶちんっ、と頭だけが切れてしまった。□	(210A) おねが<u>い</u>っ→お願<u>い</u>っ (210B) 改行→改ページ (211) 〔割〕挿入 〔割〕削除
酸っぱい臭いが辺りに飛び散った様な< 気がして、吐きそうになった。< ひえ〜ん、もう、許してよお。< 頭のない虫がのたくるのを見て、< 私はとうとう吐いた。□	
まだ、やる?< その場をかたづけて、< 部屋でうがいをした私は、< 流しの隅に立てかけた鏡に向かって< 聞いた。< 目は泣きはらしてるし、< 血の気はなくて白いし、< ひどい顔してる。□	(212) 〔 自分に向かって、そう問い掛けた。〕 改竄 (213) 〔 鏡に映るのは、目を泣きはらした、〕 改竄 (214) 〔 血の気のない、ひどい顔だ。〕 改竄 □ 二行削除
喉もいがらっぽくてヒリヒリする。< 気分も悪い。<	

でも、さっきほどじゃない。＜
やらないとカビが餓死するんだもん、＜
やる。＜
マイはチャレンジャーなんだいっ！□

新しい新聞を敷いて、＜
私は片膝をついた。＜
しゃがんでると、立ちくらみした時に＜
引っ繰り返って、危ないもん。＜
洗ったピンセットと新しい割り箸を＜
両手に持って、又、虫を掴んだ。□

力の入れ具合をいろいろ試したり、＜
道具を持ち替えたりしてみた、＜
やっと4、5匹目で、頭をちぎらずに、＜
皮を剥ける様になった。＜
やった～。＜
やっと出来たあ、ふうっ。□

嬉しいんだけど、＜
喜ぶ気力が残ってない。＜
口許がひきつった笑みになって、＜
変な感じ。・・・疲れちゃったよ。＜
やってみたら判るけど、虫の皮剥きって＜
根性いるんだからね。□
〔ここで、入るなら皮剥きゲーム〕

皮の剥けた虫の肉って、＜
白く透き通っててさ、＜
表面がぬちょぬちょしてるの。＜
えっとね、ライチの果肉みたいかな。＜
プルプルと柔らかそうなところなんか、＜
そっくり！＜
もう、ライチは食べられないね。＜
それと、冷麦もパス。□

細くて白い食べ物は、＜
しばらく見たくない。＜
食欲に急ブレーキがかっちゃう。＜
でも、いいんだ。＜
カビ、鬼の様に、＜
沢山食べてくれるもん。＜
すごいよ。＜
一回の食事で6、7匹はいっちゃう。□

発見もあったんだよ。＜
3匹目だったと思うんだけど、＜
手が滑ってさ、偶然、虫をミルクの中に＜
落っことしたの。＜
そしたら、虫が動かなくなってね。＜
それ見て、ピンときちゃったよ。＜
こうすれば、良かったんだって。□

つまりね、最初に牛乳の中に＜
虫をつけておくとね、＜
動きが鈍くなるわけ。＜
そしたら、掴み易いじゃない？＜

(又) 4、5匹 他の箇所では漢用数字に置換されている

(215) 6、7匹 → 六、七匹

(216) 3匹→三匹

お陰で、手際よく皮、◁
剥ける様になったもんね。□

で、ミルクのついた白い肉を◁
口許に持っていくとね、カピったら、◁
本当に美味しそうにガツガツ食べるの。◁
それ見てるとさ、あゝ報われた、◁
って気分で、私も嬉しくなっちゃう。◁
カピの為だったら、何匹でも虫の皮、◁
剥いてあげられる。□

(217) いく→行く

ただね、◁
口の端に虫のカケラをつけたまま◁
眠っちゃうのは許して欲しいな。◁
いくらカピが可愛いったって、◁
虫のカケラはやだよ。◁
カピの口元に付いてるくらいだから、◁
ちっちゃいんだよ。□

でも、私、そんなのが自分の◁
身体に付くなんて耐えられないもん。◁
だから、今までみたいに、◁
肩で寝させるのはやめようって、◁
思った。◁
それが、ちょっと寂しいかな。◁
肩で寝てるカピを見るの、◁
好きだったのに。□

(218) やめよう→止めよう

コウタ君にも、電話、掛けたもんね。◁
おめでとう、これでやっとマイちゃんも◁
カピの親だね、って喜んでくれた。◁
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○◁
コウタ君はコウタ君で◁
悩んでたんだって。□

(219) 一行削除

生き物を育てるのは、◁
ただ可愛がるだけじゃなくって、◁
大きな責任が伴うよね。◁
それを私に気づいて欲しかったんだけど、
女の子にあれは酷だったかなって、◁
反省してたらしい。◁
確かにあの時はヒドいと思った。◁
でもね、今は感謝してるの。□

ああやって、◁
突き放してくれなかったら、◁
自立した大人になれなかったもんね。◁
苦手な事から逃げ回ってちゃ、◁
人間、成長しないって。◁
それがよく判った。◁
コウタ君でいい人なだけじゃなくって、◁
すごい人なんだと思う。□

そう言ったら、電話の向こうで◁
照れてた。◁
きっと鼻の頭をぼりぼり搔いてるはず。◁
だんだん、判ってきたもんね、◁

本文	変更点
コウタ君の反応。◁ 話してて、とっても楽しいの。□	
それをきっかけに、◁ 毎晩電話をするようになった。◁ いろんな事、話したよ。◁ コウタ君が、実は、◁ 一つ年上なのも判った。◁ 前期の試験が近いって話の時に、◁ 去年のテスト問題とノートを◁ くれるっていうの。□	(220) <u>よう</u> → <u>様</u>
その科目は去年、◁ もう単位を取っちゃったんだって。◁ 留年してたんだ。◁ わけを聞いたら、一年生の時、◁ 受験から解放された反動で◁ キャンプばかり行ってて、◁ 第二外国語の単位を落としたって、◁ 苦笑いしてた。□	
コウタ君らしいや。◁ なんか他の男の子より◁ しっかりしてるとは、思ってたんだ。◁ 年上だから、頼れちゃうのかな？◁ ・・・違う、あれは性格ね。◁ 私のお兄ちゃん、四つも年上だけど、◁ 時々弟かと思うことあるもんね。◁ コウタ君の方がずっと大人っぽい。□	(221) <u>なんか</u> → <u>何か</u>
面倒みが良くて優しくって、でも、◁ ぶっきらぼうなのよね。◁ 複雑だぁ。◁ ルミちゃんと話すのも楽しいけど、◁ コウタ君は、又違った味があって、◁ 話してて面白い。◁ そう言えば、コウタ君、◁ 私の表現の仕方が面白いってさ。□	(222) <u>こと</u> → <u>事</u>
国文科って、変なとこにこだわるよね。◁ この前、ちょうどカピにエサを◁ やり終えた時に電話が掛かってきたから◁ 「今、『すぶらった』終わったとこ」◁ って 言ったの。◁ じゅるじゅるで、ぬちゃぬちゃで、◁ ぐちょぐちょの事、『スプラッター』◁ って言うじゃない？□	
だから、カピのエサやりは◁ 『すぶらった』なの。◁ そう言ったら、大ウケ。◁ やっぱり『マイちゃん語』はイイ！って◁ 電話の向こうで30秒は笑ってた。◁ 失礼しちゃう。□	
夢の話もしたけど、こっちはコウタ君、◁ 笑わなかったな。◁	

本 文	変更点
ルミちゃんと一緒に。◁ 魔女がいるかどうかは判らないけど、◁ 否定する気もないって。◁ 常識だけじゃ割り切れない、◁ 人知を越えた何かが存在してても おかしくないって言ってた。□	(223) おかし／挿入 おかし／削除
なんかムツカシイ言い方だけど、◁ つまり、私と同意見ってことよね。◁ そう言ったら、困ってた。◁ ちょっと違うんだって。◁ でも、幸せの魔法を使える様に◁ 早くなれるといいねって、◁ 言ってくれたもん。◁ 違いが判んなくても、別にいいや。□	(224) なん — 何か
そうだ。◁ やっとね、お礼も言えたの。◁ カピの事で、沢山、沢山、◁ お世話になってるもんね。◁ なのに、ずっとコウタ君のペースに◁ 巻き込まれて、お礼をいう暇◁ なかったからなあ。□	
ちゃんと、ありがとう、って言えて、◁ 肩の荷がおりた。◁ 「気にしなくても、良かったのに」◁ って、コウタ君、笑ってたけどね。◁ 「改めて、これからもよろしくね」◁ 「ああ、こちらこそ」◁ きさくな返事が嬉しかった。◁ やっぱりコウタ君、いい人だ。□	
私の中で、コウタ君は友達から親友に◁ 昇格したみたい。◁ コウタ君もそう思ってくれてると◁ いいんだけど。□	
離乳食になってから、カピ、◁ かなり大きくなった。◁ 拾った時の２倍以上には育ってる。◁ もう、赤ちゃんじゃないよ。◁ 立派なコウモリさん。◁ そりゃ、自然で育ったんじゃないから、◁ やっぱり体格は小さいらしいけど。◁ あ、これはコウタ君の受け売りね。□	(ル) [2倍] 数字を統一するなら [二倍] では？
お陰で、ほんの少し、虫嫌いが治った。◁ 他の虫はダメだけど、◁ ミル・ウォームだけは見ても◁ 鳥肌たたないし、素手で触っても◁ 平気になっちゃった。◁ 慣れってコワイ。□	
この調子なら、他の苦手な物だって、◁ どんどん克服していけそう。◁ カピとコウタ君から、◁	

本 文	変更点
勇気もらったもんね。□	
カピのエサも二ケース目。＜ 私にとって『すぶらった』は、 既に生活の一部になっていた。＜ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○＜	(225A) [既に生活] 挿入 [既に生活] 削除 (225B)改行→改ページ
ある夜、実家から、＜ 電話が掛かってきた。□	(226) [そんな] ある夜、／挿入
「お母さんが電話してくるなんて＜ ○めずらしいね。＜ ○お父さん、元気？」＜ 「ええ、＜ ○お前の帰りを楽しみにしてますよ。＜ ○で、マイ、明日は何時頃に着くの？」□	(395) くる→来る
「明日？」＜ 「明後日が法事だから、明日には＜ ○帰ってくる事になってたでしょう。＜ ○母さん、ちゃんと念を押しましたよ」＜ 手帳を見たら、ちゃんと自分の字で、＜ 帰省、って書き込んである。＜ ・・・すっかり忘れてた。□	
「晩御飯は、6時よ。＜ ○ヒロユキも間に合う様に帰るって。＜ ○マイも、遅れない様に＜ ○帰ってらっしゃいね」＜ 「はぁい。駅に着いたら連絡します」＜ 受話器を戻した。□	
そっか、ヒロ兄ちゃんも＜ 帰ってくるんだ。＜ お正月から会ってないよね。＜ お年玉、お前は学生だからって、＜ くれたんだ。＜ 社会人一年生のクセに、＜ 無理しちゃって。＜ わぁ、久しぶりに家族が揃うんだ。□	
・・・家族？＜ あ、カピ！＜ カピはどうしよう？＜ 私がいないと、＜ ご飯食べられないんだよね。＜ 連れて帰ろうか……。＜ でも。＜ 連れて帰って、大丈夫なのかな？□	
電車もバスも冷房入ってて、＜ 寒いんだよね。＜ カピに耐えられるか、心配。＜ 外は外で暑いしなァ。＜ そうだ。□	
〔分岐9〕 A. ルミちゃんに相談してみよう。＜	

本文	変更点
B. コウタ君に電話してみよう。□ 〔★A. を選んだ場合、続けてB. へ〕 〔分岐9／B〕 コウタ君に電話してみよう。＜ コウモリさんを運ぶ箱、＜ 持ってるかも知れない。＜ 「あ、コウタ君？あのね、＜ ○エアコン付きの箱持ってない？＜ ○カビを運びたいんだけど」□ 「サーモスタット付きの保温箱のこと？＜ ○うちにはないなあ。＜ ○それより、カビを運ぶって、＜ ○何かあったのか？」＜ 私は、カビと一緒に帰省する計画を、＜ コウタ君に説明した。＜ 「やめた方がいいな。＜ ○カビにはハードだと思うよ」□ 「だって、世話する人、＜ ○私しかいないもん。＜ ○カビの親は私なんだから」＜ 「うーん。仕方ないな、今回は特例だ。＜ ○僕がカビを預かるよ」＜ 「ほんと？いいの？」＜ 誰かに預けるなんて、＜ 思いつきもしなかった。□ コウタ君なら＜ 『すぶらった』のお師匠だもん、＜ カビにエサ、あげられるんだ。＜ 相談してみて良かったあ。＜ コウタ君に大感謝！□ その後ね、いつもより沢山＜ おしゃべりしちゃった。＜ カビの食欲の事とか、＜ うちの家族の話とか。＜ コウタ君の優しい申し出に、＜ 有頂天になってたみたい。□ 翌日の午後、＜ コウタ君がアパートに来てくれた。＜ 「それじゃ、申し訳ないけど、＜ ○カビの事よろしくお願いします」＜ ぺこり、とお辞儀した。□ 「ああ、引き受けた。＜ ○久しぶりの家族団欒なんだろう？＜ ○カビの事は僕に任せて、＜ ○ゆっくりしておいでよ」＜ 「うん、ありがと」□ 「心配して電話なんか掛けてくるなよ。＜ ○責任持って預かるから」＜ コウタ君、いたずらっぽい口調で＜	(227A) 〔彼なら〕冒頭に挿入 (227B) 改行→改ページ (228) <u>こと</u>→<u>事</u> (229) <u>やめた</u>→<u>止めた</u> (230) <u>アパート</u>→<u>マンション</u> (231) <u>くる</u>→<u>来る</u>

本文	変更点
笑いながら言った。◁ 「はいはい、信頼してるよん。◁ ○じゃあね、ほんと、よろしく！」◁ 手を振って、私は駅へと向かった。□	(232) <u>アパート</u> → <u>マンション</u>
電車で、まず大きなターミナル駅に行き◁ そこから特急に乗り換える。◁ 電車って不便よね。◁ 車だったら、アパートから実家まで、◁ ノンストップなのに。◁ あぁ、面倒臭い。□	(233) <u>いった</u> → <u>行った</u>
わざわざ街まで出て、特急乗って、◁ 普通に乗り換えてさ、◁ おまけに駅からバス！◁ カピ、連れてこなくて正解だったよ、◁ ほんと。◁ 電車の連絡は、◁ 思ったよりうまくいった。□	(234) □ [小走りに門を抜ける。] 改竄 一行削除 (235) [どうやらヒロ兄ちゃんは先に着いて◁ いるみたいだ。] 改竄
バスも待たずに乗れたから、◁ 6時ギリギリに実家に到着。◁ 小走りに門を抜けると、庭先に◁ バイクが駐まってるのが見えた。◁ あ、ヒロ兄ちゃんも、◁ もう着いてるんだ。□	
「ただいま！」◁ お母さんに聞こえる様、◁ 玄関で声を張り上げた。◁ 家の中、何も変わってないや。◁ 二階の私の部屋もそのまま、◁ 掃除だけしてくれてある。◁ お母さん、ありがとう。◁ 荷物を置いて、下に降りた。□	
晩御飯には、滑り込みでセーフ。◁ お母さんのご飯はやっぱり美味しい。◁ 四人揃って食べるから、◁ 余計に美味しく感じるのよね。◁ 会話があるだけで、こんなに違うんだ。◁ お兄ちゃん、お父さんの晩酌に◁ 付き合って、顔真っ赤っか。◁ お酒、そんなに強くないもんね。□	(236A) 改行→改ページ (236B) 美味しい。の後に一文挿入 [お父さんと、お母さん、◁ それにヒロ兄ちゃんと私・・・◁]
お母さんは、ニコニコして、◁ 二人の話を聞いている。◁ 普段、寂しいんだろな。◁ 電話さえ掛けずにいたのが、◁ すごく悪い事のような気がしてきた。◁ ・・・カピの事があったもんなぁ。◁ そうだ、いい機会だし、今、◁ カピの事、報告しちゃえ。□	
もちろん、自主休講と◁ 『すぶらった』の事は省略ね。◁ 私は、コウモリの赤ちゃんを拾って、◁	

育てている事を、三人に話した。□

「そうか。◁
○お前は昔から優しい娘だった・・・」◁
これはお父さん。◁
そのまま、◁
遠い目モードに入っちゃった。◁
「物好きなヤツ」って、◁
ヒロ兄ちゃんは苦笑い。□

「マイも少しは成長してるんだねえ。◁
○お前が生き物の世話をしてるなんて、◁
○まあ。」◁
あれ？お母さん、意外と好意的な反応。◁
気持ち悪いって、◁
嫌がられるかと思ったのに。□

「途中で投げ出さずに、◁
○ちゃんと育てなさい。◁
○母さん、泣きついて来ても◁
○知りませんよ」◁
微笑みながら、キツイ事を言う。◁
大丈夫、私、頑張ってるよ。◁
ちゃんと育てて、報告するからね。□

お母さんが寂しくない様に、◁
これからはちゃんと電話するって、◁
心の中で誓った。◁
お父さん達、又、乾杯してる。◁
・・・帰ってきて良かった。□

「そのうち写真でも◁
○送ってらっしゃいな」◁
お母さん、お皿を洗いながら、◁
突然切り出した。◁
お父さん達はまだ、居間で飲んでる。◁
「え？写真？」□

「カピの写真。実物は遠慮したいけど、◁
○マイがあんまり可愛って言うから◁
○見たくなったのよ」◁
「うん、今度、送る」◁
食卓を拭きながら、応えた。◁
そういや私、カピの記録、◁
何もとってない。□

明日帰ったら、コウタ君に記念写真◁
撮ってもらわなくっちゃ。◁
お母さんと約束しちゃったもんね。□

かたづけを終えて、お風呂に入った。◁
家のお風呂って銭湯と違って、◁
落ちつくよね。◁
湯船に漬かって身体を伸ばすと◁
気分は極楽。◁
あぁ、溶けちゃいそう。□

(ヲ) 銭湯と違って→他で銭湯に行く描写が削除されている
(237) づく→着く

本 文	変更点
・・・カピ、ちゃんにご飯食べたかな。＜ 一人になるとやっぱり思い出しちゃう。＜ 心配するなって言われても、＜ 気になるもんは仕方ない。＜ 上がったら、電話してみようか？＜ でも、掛けなくていいって＜ 言われたんだよね。□	
掛けたら、コウタ君のこと、＜ 信用していないみたいじゃない。＜ 湯船の中で悩んでたら、＜ 茹だってしまった。＜ 上がって、考えよう。□	(238A) [電話なんか] 冒頭に挿入 (238B) <u>こと</u> → <u>事</u>
バスタオル一丁のまま、＜ 電話の前で悩んだ。＜ どうしよう？＜ コウタ君、気を悪くするかな。＜ でも、私のこと気づかって、＜ 電話かけなくていいって＜ 言ってくれたんだし。□	(239) <u>だし。</u> → <u>だし・・・</u>
掛けてもいいよね？＜ ほんと、どうしよう？□	
〔分岐10〕 A. まあ、いいか、一晩くらい。＜ B. 思い切って、掛けてみよう。□	
〔分岐10／B〕 思い切って、掛けてみよう。＜ RRRRRRRRR・・・＜ 「もしもし、上川さんのお宅ですか？」＜ 「あ、マイちゃん！良かった、＜ ○連絡が取れて！」＜ 声が切羽詰まってる。＜ 嫌な予感。＜ 「あの、カピ、何かあったの？」□	(240) 選択肢と重複の為削除 (241) 一行削除
「うん、申し訳ない。＜ ○実は、夜になってから、＜ ○急に具合が悪くなった」＜ 「ええっ！病気かなにか？」＜ 「環境の変化が原因かも知れないが、＜ ○よく判らない。＜ ○済まない、＜ ○こんなことになってしまって」□	(242) <u>なにか</u> → <u>何か</u> (243) <u>こと</u> → <u>事</u>
コウタ君は、つらそうに詫びた。＜ 「うううん、＜ ○コウタ君のせいじゃないよ。＜ ○気にしないで、お願い。＜ ○それより、カピ、どんな具合なの？」＜ 「・・・ぐったりしている。＜ ○エサもほとんど口にしないんだ」□	
カピ、カピ、可哀想に。＜	

本 文	変更点
苦しいのかな？＜ 家から出さなきゃ良かったのかな？＜ ごめんね、カピ。＜ 私のせいだ。＜ あ〜ん、カピ、どうしちゃったのよ！＜ 「なんとか出来ないの？」＜ 祈る様な気持ちで尋ねた。□	
「動物病院は、もう閉まってたんだ。＜ ○先輩にも連絡が取れない。＜ ○僕も出来る限りの事はやってみたが、＜ ○ダメだった」＜ 「そう・・・カピの為にいろいろと、＜ ○ありがとう」□	
「明日になったら、＜ ○すぐ病院に連れていくよ。＜ ○今夜はずっとカピについてる。＜ ○マイちゃんは明日、用事を済ませて＜ ○戻ってきたらいい」＜ 「カピ・・・死んじゃわない？」＜ 「それは大丈夫だと思う、たぶん」＜ コウタ君って、正直。□	(244) <u>いく</u> → <u>行く</u>
嘘ついて安心させたり＜ 出来ないんだよね。＜ だから、信じられるんだけど。＜ ・・・・・・・・私、＜ どうしたらいいんだろ？＜ カピのこと、とっても心配。＜ でも、何もしてあげられないの、＜ 判ってる。□	(245) <u>こと</u> → <u>事</u>
でもっ、でもっ、＜ 側についていてあげたい。＜ どうしよう？□	
〔分岐11〕 A. 「判った。＜ ○○○コウタ君の言う通りにする」＜ B. 「私、今からそっちに帰る」□	
〔分岐11／B〕 「私、今からそっちに帰る」＜ 「なんだって？明日、法事なんだろ？＜ ○だいたい、どうやって戻る気だい？」＜ 困った。＜ この辺は電車の最終が早いんだ。＜ もう、間に合わない。＜ もっと早くに電話しとけば良かった。＜ 何か、方法はない？□	(ワ) 選択肢と重複しているが削除されていない (246) <u>なん</u>だって→<u>何</u>だって
そうだ！ヒロ兄ちゃん！＜ 「お兄ちゃんのバイクで＜ ○送ってもらうから帰れるよ。＜ ○今すぐ帰る！」＜ それだけ言って、電話を切った。＜	

本 文	変更点
待ってて、カピ、今行くからね。□	
居間をのぞくと、◁ お父さんとお兄ちゃん、◁ 気持ち良さそうに軒をかいていた。◁ 「お兄ちゃん、起きて。ねえ！◁ ○緊急事態なの、ねえってばっ！」◁ 駄目だ、完全に酔い潰れてる。◁ もし起きても、こんなじゃ◁ 飲酒運転で捕まっちゃうよ。□	(247) <u>のぞく</u>→<u>覗く</u> (カ) <u>軒</u>はなぜそのままなのか？
酔いが醒めるのを待つ？◁ そんなの、いつになるか判らない！◁ カピ、ごめん。◁ 帰れないよお。◁ ひどい親だよねえ、◁ お前が苦しんでるのに◁ 側についててやれないなんて。□	
何も出来ない自分が情けなくて、◁ 涙が出てきた。◁ ごめん、カピ……。□	
泣きながら、カピのこと、◁ いろいろ思い出した。◁ 拾った日のこと、◁ ミルクを初めて飲ませた時のこと、◁ 離乳期のこと。◁ ・・・あの時も泣いたっけ。◁ でも、諦めなかったんだ。□	(248) <u>こと</u>→<u>事</u> (249A) <u>こと</u>→<u>事</u> (249B) <u>こと</u>→<u>事</u> (249C) <u>こと</u>→<u>事</u>
もうダメって何度も思ったけど、◁ 私、やり遂げた。◁ そうだよ。□	
やれば出来るってあの時思った。◁ カピに勇気もらったんだよ！◁ ・・・泣いてる場合じゃない。◁ なんとかしなくちゃ。◁ ここで諦めたら、ずっと後悔する。◁ なんか、方法、あるはずだもん。□	(250) <u>なんとか</u>→<u>何とか</u> (251) <u>なんか</u>→<u>何か</u>
・・・・・・・・・・・・・・・・・・！！◁ バイク・・・お兄ちゃんがダメでも、◁ 私、運転出来るじゃない！◁ 地図見たら、道も判るはずだし。◁ 着替えなくっちゃ。◁ 私は自分の部屋に急いだ。◁ 洗い髪はもう、すっかり乾いている。□	(252) [・・・・・・・・・・！！バイク・・・お兄ちゃん◁] [がダメでも、◁] に変更
押入れの隅から一年ぶりに◁ メットとブーツを出した。◁ お兄ちゃんと買いに行った、◁ ジェットタイプのヘルメット。◁ ゴーグルも手袋もブーツの中に◁ 突っ込んだまんまになってる。□	

本 文	変更点
手早く、◁ 長袖のウィンドブレーカーを羽織り、◁ お兄ちゃんの部屋で地図を確認した。◁ ・ ・ ・ 国道までは出れる。◁ そのまま走って行って、◁ 一回曲がるだけで、いつもの図書館の◁ 前の道に出るんだ。□	
けっこう簡単！◁ これなら覚えられそう。◁ 玄関でブーツを履いてたら、◁ お母さんに見つかった。◁ 「マイ、どうしたの？」◁ 「お母さん、カピが死にそうなの。◁ ○私、帰る。止めても無駄だからね」□	(253) 改行→改ページ
お母さん、私の泣き腫らして真っ赤な◁ 目と、一文字に結んだ口許、交互に見て◁ ため息をついた。◁ 「まったく。動物を飼うのは◁ ○これだから・・・いいわ、マイ、◁ ○最後まで投げ出さずに、◁ ○面倒見てきなさい。◁ ○ヒロユキにはちゃんと言っておくわ」□	(254) 改行→改ページ
「ありがと。安全運転するから、◁ ○心配しないで」◁ 「バイク、久しぶりなんだから、◁ ○ほんと、気をつけてよ。◁ ○さっ、いってらっしゃい」◁ 玄関のキーボックスから◁ バイクのキーを取って、お母さん、◁ しっかり私に握らせてくれた。□	(255) <u>い</u> って→ <u>行</u> って
夜の道をどんどん走る。◁ 乗り慣れたお兄ちゃんのバイク。◁ の、はずだった。◁ おかしいなあ。◁ こんなに、シート、高かったっけ？◁ ギアも入れづら〜い。□	(256) バイク <u>。→</u> バイク <u>、</u>
何よりスピード出すのが、怖い。◁ なんて、一年前は◁ 80キロも出せてたんだろ？◁ 50キロでもドキドキしてる。◁ こんなんじゃ、◁ いつ着くか判んないじゃない！□	(257) <u>なん</u> で→ <u>何</u> で
怖がってちゃ駄目。◁ もっとスピード上げなくっちゃ。◁ カピ・・・待っててね。◁ 私、ちゃんと帰るから。□	
かなり走ったつもりで、◁ やっと駅前を通過。◁ やれやれ、先が思いやられる。◁ でも、慣れてきたのか◁	

本 文	変更点
さっきより怖くない。＜ 私は駅前の交差点を右折して、＜ 国道に入った。□	
この道をずっと走って、＜ 山、越えるんだ。＜ そしたら、最短コースで、＜ カピのいる街に行ける。＜ ・・・カピ、大丈夫かな。＜ 間に合わない、なんてこと、ないよね？＜ 私の事、待っててくれるよね。＜ 今、行くから！□	(258A) <u>なんて</u>→<u>何て</u> (258B) <u>こと</u>→<u>事</u>
もっと、もっと、急がなきゃ。＜ さっきよりも大胆に＜ スロットルを開けた。＜ スピード、もう怖くないもん。＜ 駅前のネオンが、バックミラーの中で、＜ ぐんぐん遠ざかっていってる。＜ いい調子。□	
夜の国道、車少なくて、助かるな。＜ あれれ、前方の空が明るい。＜ なんだろう？＜ あ、ガソリンスタンドの照明。＜ 対向車線じゃ、寄ってられないや。＜ 中央分離帯あるし、急いでるもんね。＜ でも、行った方がいい気もする。＜ どうしよう？□	(259A) <u>なんだろう</u>→<u>何だろ</u> (259B) 改行→改ページ
〔分岐12〕 A. 寄った方がいいよね。＜ B. やめとこう。□	(260) <u>やめとこう</u>→<u>止めとこう</u>
〔分岐12／B〕 やめとこう。＜ わざわざ道に戻るのは、＜ 時間のムダだもん。＜ 国道なんだし、＜ この先にだってあるはず。＜ 今は急がなくなっちゃ。□	(261) 選択肢重複の為に削除
時々、メットにコンッって＜ 石みたいなのが、当たり始めた。＜ カナブンさん、体当たりは痛いよ。＜ 虫が多いってことは、＜ 山が近くなってきたんだよね？＜ うん、電気の点いてる家、＜ 少なくなってきた、暗いや。□	
・・・こんな夜中に私、走ってるよ。＜ なんか、不思議よね。＜ 私が、こんな冒険してるなんてさ。＜ カピと出会ってなかったら、＜ 夜中の峠越えなんてこと、＜ 絶対しなかったと思う。＜ でも今やってるんだ。＜	(262) <u>なんか</u>→<u>何か</u> (263) <u>こと</u>→<u>事</u>

本文	変更点
カビに会う為に。□	
そろそろ道が上りになってきた。＜ 気を抜かないように、頑張らなきゃ。＜ 周りは森に囲まれて、真っ暗。＜ こんなところでエンジン止まったら、＜ 立ち往生よね。＜	(264) <u>よう</u> → <u>様</u>
ユーレイが出たらどうしよう？＜ あん、変なこと想像するの、＜ 止め、止め。□	(265) <u>こと</u> → <u>事</u>
余計に怖くなっちゃうよ。＜ 魔女なら会ってみたいけど、＜ ユーレイは怖いもん、見たくない。＜ どっちもいるって信じてるから、＜ こんなこと、悩んじゃうんだわ。＜ それより、ここ、＜	(266) <u>こと</u> → <u>事</u>
国道のクセに外灯ついてないじゃない。＜ なんで？□	(267) <u>なんで</u> ？→ <u>何</u> で？
ガードレールに反射する＜ バイクのライトだけが頼り・・・＜ これは、あんまりだよ。＜ 道がどう曲がってるのか判んないから、＜ ハンドル切るのが遅れちゃって、困る。＜ まるで、屋内型のジェットコースター。＜ 夜の山道が、こんなに怖いなんて＜ 知らなかった。□	
さっきも、＜ いきなり目の前の道がなくなって、＜ 急カーブが始まるんだもん。＜ 心臓、止まるかと思った。＜ なんとか曲がりきれて、＜ セーフだったけどさ。□	
カーブの連続を抜けたら、峠に着いた。＜ 何にもなくて薄暗い道端に、＜ 電話ボックスだけが、＜ ぼうっと光って立ってる。＜ ちょっと休憩した方がいいかな？□	
うん、ちょっと休もう。＜ エンジンを止めたら、音がなくなった。＜ いゃ～ん、静か過ぎる。＜ サイドスタンドをたてて、＜ バイクから降りようとしたら、＜ 腕がこわばってた。＜ 力、入ってたんだ。＜ 休んで良かった。□	
あのままだってたら、＜ 下り坂曲がれなかったかも。＜ 軽く腕を振り回して、緊張をほぐした。＜ あとは下りだけ。＜ 山を抜けたら、あとはずっと走って、＜ 一回曲がれば、知ってる道に出るはず。＜	

本文	変更点
・・・カピ、大丈夫かな？＜ もうすぐだからね、待ってて。□ メットをかぶり直して、＜ 又、走り出した。＜ あれ？＜ エンジンの感じがおかしい。＜ ブスブス言ってるよお。＜ うわぁ、止まっちゃった。□	
なに？・・・あ、ガス欠。＜ しかも、＜ 予備タンクの方まで使い切ってる！□	(268) <u>なに？</u> → <u>何？</u>
ヒロ兄い、ちゃんと入れといてよお。＜ 心の中で毒づいた。＜ って、私が勝手に＜ 持ち出したんだけどさ。＜ やっぱり、さっきのスタンド＜ 寄っといたら良かった。＜ 今更しかたないけどさ。＜ あ〜ん、どうしよう？□	(269) <u>しかた</u> → <u>仕方</u>
もう半分くらい下ってきてるんだよね。＜ 下り・・・そうだ！その手があった。＜ 下り坂なら、バイクは＜ ほっといても進むんだ。＜ 問題はブレーキ。＜ もつかな？＜ ヒロ兄い、酷使させてもらうわ、＜ ごめん。□	(270) 改行→改ページ
エンジン切った無音のバイクで、＜ ブレーキかけ通しのまま、＜ 残りの坂を下った。＜ ブレーキって使い過ぎると熱もって、＜ 効かなくなるんだよね。＜ 冷や汗たらたらで、カーブを曲がった。□	
けっこうスピードが出て、＜ 怖かったけど、＜ 思ったより早く、抜けられそう。＜ 前方にガソリンスタンドの＜ 眩しい照明が見えてきた。＜ ラッキー、開いてる！□	(271) 改行→改ページ
満タンにして、国道に戻った。＜ もう道もかなり平坦。＜ 遅れた分、取り戻さなくっちゃ。＜ カピ、待ってて！□	
〔分岐12／合流点〕 しばらく走ると、前方で、赤いランプが＜ 回ってるのが、見えた。＜ 何？事故お？＜ 違う、工事だ。＜ なんで、こんな夜中に工事なんか＜	(272) <u>なんで</u> → <u>何で</u>

本 文	変更点
やってるの！＜ 他の日とか場所でやってくれたら＜ いいのに。□	(273) 日とか [他の] 場所で
なんで、この道なのよ。＜ この道からはずれちゃったら、＜ あと、判んないじゃない。＜ 困ったな。＜ バイクのスピードを落として、＜ 近くまで行ったら、誘導のおじさん、＜ 丁寧に回り道を教えてくれた。＜ 仕方ない、行くしかないもん。□	(274) <u>なんで</u>→<u>何</u>で
私は、側道に入って、＜ 教えられた道を進んだ。＜ えっと、3つ目の信号で左折だよね。＜ あれ？＜ 道が丁字路になってる。□	(ヨ) 3つ目 どの様な規則性に基づいて残されたのか？ (275) 丁字路→<u>工</u>字路
信号、数え損ねたのかな？＜ どうしよう、直進できないよ。＜ 戻ろうと思ったら、一方通行だし。＜ 右かな？左かな？＜ こんなところで、迷ってるヒマない。＜ 早くどちらか決めなきゃ。＜ ・・・左折なら、元の道の方向だよね。＜ とにかく、行ってみよう。□	(276) <u>できない</u>→<u>出来ない</u> (277) ヒマ→暇
うううう・・・・・・困った。＜ 迷っちゃったみたい！＜ 昼間、目印にしている建物、＜ 夜は全然見えないんだもん。＜ こんなところで時間をロスしてる暇＜ ないんだってばっ！□	
無茶苦茶に走り回ってたら、＜ ここがどこかも、＜ どっち向いて走ってるかも＜ 判んなくなっちゃった。＜ あ～ん、神様のイヂワル！！＜ 誰か助けて。＜ ・・・コウタ君。＜ あれ？□	
なんで、ここで名前が出てくるの？＜ いつも助けてくれるからかな。＜ でも、今は自分の力で＜ やるしかないんだよね。＜ カピ、コウタ君、見てて。＜ ちゃんと帰るから。□	(278A) <u>なんで</u>→<u>何</u>で (278B) <u>くる</u>→<u>来る</u>
あ、コンビニ。＜ 助かった！＜ これで道、きける。＜ と思ったら、知ってるよ、＜ このコンビニ。＜ うん、ここ、見覚えある。＜	

本 文	変更点
なんだ、△ もう図書館の近くまで来てたんだ。□	(279) <u>なんだ</u> → <u>何だ</u>
私ってスゴイかも知んない。△ ・・・うにゃ、ドン臭いだけか。△ 図書館の前を下って、△ 私はアパートへと向かった。△ 公園の角を曲がったら、△ 見慣れたアパート。□	(280) <u>アパート</u> → <u>マンション</u> (281) <u>アパート</u> → <u>マンション</u>
やっと着いた・・・ふうっ。△ 「マイちゃん！」△ 声が降ってきた。□	
二階の廊下に人が立ってる。△ あ、コウタ君！△ え〜っ？来てくれてたんだ。△ 両手でカピのおうちを抱えたまま、△ 階段を降りてきた。△ ずっとうちの前で待っててくれたの？△ ありがとう、コウタ君。□	(282) 改行→改ページ
「お兄さんは？」△ 「うん、いろいろあって、△ ○自分で乗ってきちゃった。△ ○それよりカピは？」△ 「うん。容態は変わらないはまだ」△ 難しい顔をして、箱を差し出した。△ 箱の中のカピは、△ いつもより小さく見えた。□	(283) 改行→改ページ
カピッ・・・ごめんね。△ 今、帰ってきたよ。△ 視界がぼやけた。△ やだっ、涙が止まらない。△ カピ見たら安心しちゃった。△ 私、カピのおうちを膝に抱えて、△ そのまま座り込んでしまった。□	(284) カピ見たら→カピ [を] 見たら
「マイちゃん、大丈夫か？」△ 「ん・・・ぐすんっ、大丈夫・・・」△ ハンカチ、渡された。△ 拭いたら、ハンカチ真っ黒け。△ あ、スス付けちゃった。△ そういや、マスク、してなかったっけ。△ 「排気ガスいっぱい吸っちゃった」△ きっと、ひどい顔、してる。□	
「とにかく、顔洗いなよ」△ 「うん、でも・・・立てないの」△ ほんとに気が抜けちゃったらしい。△ カピに会えて、コウタ君の顔見たら、△ 私、糸が切れちゃった。△ 今頃になって、△ 身体がぶるぶる震えてくる。△ ・・・怖かったんだから！□	(285) <u>くる</u> → <u>来る</u>

本 文	変更点
大変だったねって、優しく腕を掴んで、＜ コウタ君、立たせてくれた。＜ 支えて貰って、階段をなんとか登り、＜ カビと私は、＜ やっとおうちに帰りついた。□	(286) <u>なんとか</u> → <u>何とか</u>
急いで顔を洗って、＜ テーブルの前に戻る。＜ カビ、大丈夫？＜ よく見ると、小刻みに震えてる。＜ 苦しいの？＜ ごめんね、こんな時に側に＜ 居てあげられなくて。＜ 心細かったよねえ、可哀想に。□	(287) 二行削除 □
手のひらの上のカビは、＜ 夜中なのに、あんまり動かない。＜ いつもなら箱の中でかさかさと、＜ 活発に這い回ってる時間なのに。＜ このまま、＜ 死んじゃったらどうしよう・・・＜ 又、涙がこぼれてきた。□	
「ほら、飲んで。落ちつくから」＜ コウタ君がマグカップを＜ テーブルに置いた。＜ 湯気のたったホットミルク。＜ 作ってくれたの？＜ 口の中に甘いミルクがひろがった。＜ 美味しい・・・。□	(288) 落ち <u>つ</u> く→落ち <u>着</u> く
「悪い。勝手に台所、使ったよ」＜ 「いいよ、気にしないで」＜ 電話からこっち、コウタ君、＜ 謝ってばかりだ。＜ カビの事、自分のせいじゃないのに、＜ 責任感じてくれてる。□	
「カビの事だって、コウタ君、＜ ○全然悪くないよ。＜ ○ほんと、気にしないで」＜ 「いや、預かった以上は僕の責任だ。＜ ○それに・・・」＜ 「それに？」＜ 「マイちゃんに、怖い思いを＜ ○させてしまったからね」□	
「私、ワガママなだけだよ。＜ ○みんなに迷惑かけて、心配かけて＜ ○・・・怖い思い、したのだって、＜ ○自業自得だもん」＜ 「それでも自分が許せないよ」□	
「違うの！コウタ君がいたから、＜ ○私、ここまで頑張れたの。＜ ○困った時、＜ ○いつも助けてくれたじゃない。＜	

本 文	変更点
○私、コウタ君がいないと< ○ダメなんだから！」□ ・・・あ、言ってしまった。< かぁ〜っと顔が熱くなる。< やだ、どうしよう。< 思わず口走っちゃったよ。< あれ？コウタ君も、顔真っ赤。< 「ん・・・ありがとう。< ○頼りにされて嬉しいよ」□ いつもの優しい笑顔で、コウタ君、< 恥ずかしそうに目を細めた。< あ〜、照れてる。< そっか、迷惑じゃないんだ。< 頼られると嬉しいんだ。< えへへ。< 私も嬉しい。□	
カピを見守りながら、道に迷った話や、< これまでの事をいろいろ話した。□ 〔分岐13/ ★フラッグによる〕	(289) 道に迷った話や、／削除 〔カピを見守りながら、これまでの事をい<〕 〔ろいろ話した。〕に改竄
〔分岐13/B〕 カピの容態は変わらない。< ぐったりして、小刻みに震えたまま。< 朝になったら、すぐ病院行こうね。< それまで頑張って、カピ。< ずっとそばにいるから。< コウタ君もついてるよ。< きっと大丈夫。□	(290) <u>そば</u>→側
・・・でも。< カピ、つらそう。< 「可哀想。何か出来ること、< ○ないのかな？」 「・・・あとは祈る事ぐらいだ。< ○他に出来る事は何も残ってない。」< 一所懸命に考えて、< コウタ君が応えてくれた。□ 「祈る・・・って、いったい誰に？< ○祈ったら、きいてくれるって言うの？< ○私、そんな事しか、< ○カピにしてあげられないの？」< 自分の無力さがつらくって、< 又、涙がこみ上げてきた。□	(291) <u>こと</u>→事
「コウタ君、ごめん。< ○こんなこと言うつもり、なかったの。< ○カピに何もしてやれない< ○自分に腹が立っちゃって・・・。< ○情けないよね。< ○ほんと、ごめんね。」< 鼻をすすりながら、謝った。□	(292) <u>こと</u>→事

本 文	変更点
「いいんだ、気にするなよ。＜ ○ちゃんと判ってるから。＜ ○それに『そんな事』じゃないよ。＜ ○祈るってことは、大事なことなんだ。＜ ○やるべき事を全てやって、＜ ○それでもダメな時には、＜ ○祈るしかないだろう？□ ○最期まで諦めずに、祈り続けたら、＜ ○きっと何かが起こるって＜ ○僕は思ってる。＜ ○マイちゃんの幸せの魔法と同じさ」＜ 「魔法とおんなじ？・・・」＜ それなら、判る。＜ 私、絶対あるって、信じてるもん。□	(293) やる<u>こと</u>→やる<u>事</u> 大事な<u>こと</u>→大事な<u>事</u>
ただ、見守ってるより、＜ 少しでも出来ること、しよう。＜ 私、諦めたりしないよ、カピ！＜ きっと、元気になるって、信じてる。＜ その為に祈り続けるよ。＜ だから、頑張って！□ 「私、祈る！＜ ○お願い、コウタ君も祈って」＜ 「もちろん」＜ 二人で、真剣に祈った。＜ 神様、どうか、カピを助けて下さい。＜ お願いします。＜ どうか、カピを助けて！＜ お願い・・・□	(294A) <u>こと</u>→<u>事</u> (294B) 、<u>しよう</u>→<u>をしよう</u>
.....＜ あれ？＜ 外が明るい。＜ 朝？＜ 私、寝ちゃったの？＜ かたわらでコウタ君が＜ 座ったまま、寝てる。＜ カピは？！□ 箱の中にカピの姿はなかった。＜ 嘘！＜ 「カピ、どこ行ったの？」＜ 「どうした？」＜ コウタ君がガバッと飛び起きた。＜ 「大変なの！＜ ○カピが、カピが消えちゃった！」□	(295) 一行削除
畳の上も、テーブルの下も、＜ 電話線の裏も、大慌てで、捜した。＜ 二人がかりなのに、見つけれない。＜ どうしよう？＜ 動物って死期が近づくと＜ 身を隠すって、いうけど、まさか・・・＜ 悪い方に考えちゃ、ダメだってば。＜ でも・・・□	(296) <u>いう</u>→<u>言う</u>

本文	変更点
「マイちゃん、上！」◁ コウタ君が天井を指さした。◁ カピッ！◁ カピが飛んでる！◁ 飛んでる・・・◁ カピ、飛べる様になったんだ！◁ ・・・ああ、神様！□	(297) [そこには・・・□] 一行挿入
ひらりっ、ひらりって、羽ばたいて、◁ カピはぎこちなく、◁ 食器棚の上に着地した。◁ コウタ君が背伸びして、◁ そうっと捕まえる。◁ その手の中でから、◁ 「カピカピカピカピ・・・」◁ いつもの甘える様な声。□	(298) [ひらりっ、ひらりって、カピが羽ばたいて◁] [ている。◁] に改竄 (299) 一行削除 (300) 一行削除 [私は、そうっと捕まえた。◁] に改竄(行為者交代)
お腹空いたの？◁ 虫をあげたら、3匹くらい、◁ いっぺんに食べた。◁ これだけ食欲があれば大丈夫って、◁ コウタ君が嬉しそうに笑う。◁ 良かったぁ。◁ カピ、治ったんだ。◁ ほんと、良かった。□	(301) 3匹→三匹
おまけに飛べる様になって・・・◁ 「今夜だな」◁ コウタ君、カピを見ながらつぶやいた。◁ 何が？とは聞き返さなかった。◁ 飛べる様になったら、巣立ちだもん。◁ 放してあげなきゃいけないの、◁ 判ってる。◁ 「明日じゃダメ？」□	(302) 改行→改ページ
「判ってるんだろ？」◁ うん、判ってる。◁ 飛べる様になったら、なるべく早く◁ 帰してやらなきゃいけない。◁ 家の中じゃ、お腹いっぱい、蚊、◁ 食べられないもの。◁ 蚊は買えないし、◁ 私じゃ、捕まえられない。□	
「どこがいいかな？」◁ 私は、明るく尋ねた。◁ 「そうだな・・・学校の裏山かな」◁ 「コウタ君も一緒に来てね」◁ 「当然さ」□	
その日の夕方、私達は、◁ 学校の裏山に立っていた。◁ 手の中にはカピのおうち。◁ ・・・カピ、お別れだね。◁ お前に会えて、私、幸せだった。◁ いろんな事があって、楽しかったよね。◁	

本文	変更点
カピのお陰で、私、＜ ちょっと成長出来た。□ さぁ、お前の仲間のところに、お帰り。＜ ありがとね、カピッ！＜ 私の手のひらから、カピは飛び立った。＜ しばらく、私達の頭上を旋回している。＜ 「カピも寂しいのかな？＜ ○お友達、出来るかな？」＜ 「大丈夫。カピならやっていけるよ。＜ ○ほら」□	(303) 改行→改ページ
何匹かのコウモリが、＜ カピの近くまで飛んできた。＜ もうどれがカピだか判らない。＜ 「カピ、元気でね！バイバイ！！」＜ 私とコウタ君、カピに向かって、＜ 見えなくなるまで、思いっきり＜ 手を振った。□	(304) 改行→改ページ
「行っちゃったね。＜ ○これで『毎日がすぶらった』な生活も＜ ○お終いかぁ・・・」＜ 暮れなずむ夕陽をぼんやり眺めていたら＜ せつなくなってきた。＜ 「寂しい？」＜ コウタ君、私の目を覗き込んで、＜ 聞いてくれた。□	
「うん。でも、＜ ○コウタ君いるから、いい」＜ 私はにっこり微笑んだ。＜ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○＜ すっかり夜になり、星が瞬き始める。＜ 「戻ろう」＜ コウタ君が、手を差し出して、＜ 優しく言った。□	(305) 改行→改ページ
その手をしっかり握って歩き始めた時＜ 突然、思い出した。＜ 「あ～～～！」＜ 「何？マイちゃん」＜ 「・・・冷蔵庫の虫、どうしよう？」□ 〔HAPPY END〕	(306) 改行→改ページ
〔分岐1/A〕 私はその場を逃げだした。＜ 後も見ずにアパートの階段を＜ 駆け上がり、自分の部屋に飛び込んで、＜ べたん、と座り込んでしまった。＜ ・・・だって。＜ あんなの見てられないよ。＜ 死ぬのが判ってるのに。□ 助けてあげたかったけど、＜ 怖くて素手じゃ触れないし。＜ 何も持ってなかったんだもん。＜	(タ) 選択肢と重複しているが削除されていない (307A) アパート→マンション (307B) 「駆け上がった。」に改竄 (308A) 「・・・□」一行挿入 (308B) 改行→改ページ (308C) 「そして、」自分の部屋に飛び込んで／挿入

本 文	変更点
・・・もう、死んじゃったのかなぁ。◁ 今から戻っても、もう遅いよねえ。◁ ああ、なんだか憂鬱。◁ やだなあ。□	(レ) 【憂鬱】 字画が多いのに、そのままなのは？
私っていつもこうなんだ。◁ 後から落ち込むなら、◁ その時になんとかすればいいのにね。◁ どんどん気分が滅入っていく。◁ その日は、もう外出しないことにした。◁ 夕飯はカップラーメンですませて、◁ 時間潰しにビデオを見て、◁ さっさと床に就いた。□	(309) なんとか→何とか (310) 改行→改ページ
一晚寝たらきっと忘れちゃうよ。◁ そう、どうしようもなかったんだから。◁ 翌朝になっても、心は重かった。◁ どうなったのかなぁ？◁ 確かめるのが嫌で、◁ その日は自転車を使わなかった。◁ うん、しばらくは◁ 自転車置場に近寄るもんか。□	(311) 改行→改ページ
何かを見ても、もう絶対◁ 確かめたりしないって決めたんだから。□ 〔BAD END〕	
〔分岐2/A〕 まだ辞典は見てなかったんだ。◁ えっとコウモリ、コウモリ。◁ 「哺乳動物翼手類の総称。◁ ○前足の指とからだの側面の間に◁ ○つばさ状の膜があり空中を飛ぶ」◁ ふむふむ、え？それだけ？◁ やっぱり国語辞典じゃダメか。□	
〔分岐2/B〕 動物園の人にきいてみよう。◁ この辺って動物園あったっけ？◁ 番号案内で教えて貰って、◁ 動物園に電話を掛けてみた。□	(312) 改行→改ページ
ありゃりゃ、休園日い？ツイてない。□	
〔分岐3/A〕 「ティッシュは？」◁ 「うーん、ヘタすると◁ ○窒息死させかねないぞ」◁ 「コヨリみたいに◁ ○振じったらどうかな？」◁ 「とにかくやってみよう」□	(313) 選択肢と重複の為一行削除
あーん、せっかく振っても、◁ ミルクを吸うとほどけちゃうよ、◁ こりゃダメだわ。◁ 「やっぱり無理だな」□	

本文	変更点
〔分岐4/A〕 「綿棒なら、いけるかも？」＜ 「そうだね、やってみよう」＜ 救急箱から出してきた綿棒を、＜ 小皿につけてみた。□	(314) [コウタ君は言う。＜] 一行挿入 ★↑この時点で不可能な呼称
みるみるうちに先が膨らんでゆく。＜ 「ダメ・・・みたいね」＜ 「うん、名案だと思ったんだが」＜ ぼりぼりと鼻の頭をかいて、＜ 彼は苦笑いした。□	(315) [これじゃ、大き過ぎる。＜] 一行挿入
〔分岐5/B〕 ルミちゃんに、電話、電話。＜ 「ルミちゃ〜ん、おひさ」＜ 「おひさ、じゃないでしょ！ずっと＜ ○学校こないから心配したじゃない。」＜ わっ、怒られちゃった。＜ しまったなあ、相談してから＜ どうなったか連絡するの、＜ 今日まで忘れてたんだよね。□	
カピの事しか考えてなかったわ。＜ とりあえず、今日までの事を＜ 全部ルミちゃんに報告した。＜ 「ふーん、だいたいの事情は判ったから＜ ○許したげる。乳飲み子のコウモリが＜ ○いるんじゃ、学校これないわね。＜ ○代返とノートの話は＜ ○まかせてくれていいよ」□	(316) 改行→改ページ
ルミちゃんサンキュー、＜ さすがは親友。＜ 「でもね、マイちゃん、コウタ君は＜ ○イヤツだからいいけど、これからは＜ ○もうちょっと気をつけた方がいいよ」＜ 「へ？何が？」＜ 「だからあ、男の子を＜ ○一人暮らしの部屋に招き入れたこと」□	(317) 改行→改ページ (318) <u>こと</u>→事
「・・・あ・・・うん、そうだね。＜ ○考えてもみなかった」＜ そう、コウタ君は友達だけど、＜ 男の子だったんだ。＜ 「ほらあ、自覚がなさ過ぎよ、＜ ○マイちゃん」＜ 「でもコウタ君いい人だよ、カピの事、＜ ○真剣に心配してくれたもん」□	
「それは判ってるって。＜ ○頼れるコだから紹介したのよ。＜ ○私が言ってるのは一般論」＜ ルミちゃんから見たら、私って＜ 危なっかしいらしい。＜ 私はおとなしくお説教をきいて、＜ 受話器を置いた。□	(319) <u>き</u>いて→<u>聞</u>いて

本文	変更点
女の子の自覚・・・か。＜ コウタ君も、無防備なヤツだと＜ 思ってるかな？＜ ううん、それはないわ。＜ あの人、そんな事＜ 思いつきもしないと思う。＜ 私より子供っぽいもの。□	
〔分岐5／C〕 先輩に電話しよう。＜ 「あ、先輩、藤峰です。すみません、＜ ○連絡が遅くなって」＜ サークルの例会を休んだことで、＜ 心配掛けてたみたい。＜ 例会がなくなっても、毎日顔出して、＜ 遅くまで残ってたからなあ。＜ そりゃ、心配してくれるわけだわ。□	(320) こと→事 (321) 改行→改ページ
理由を話して、＜ しばらく休むって言ったら、逆に、＜ 立派に育て上げろと激励されちゃった。＜ 大学入ってからこっち、＜ 私の周りっていい人ばかり。＜ 家からちょっと遠くても、＜ ここに来て良かった。□	(322) 改行→改ページ (323) 二行にわたり削除
先輩は、サークルの＜ 今後の活動予定を話して、＜ 最後にもう一度、＜ 頑張れ、って応援してくれた。□	
残念だったのは、ツーリング。＜ サークルの有志で行こうって計画が＜ あったんだって。＜ 当然、アウト。＜ ツーリングなんて一日仕事だもんね。＜ ……今ならバイク＜ 乗れるんだけどなあ。□	
事故った時に、大学受かるまで禁止、＜ って約束させられて、＜ もう1年以上乗ってない。＜ 折角の春休みも、お兄ちゃん、＜ バイクで帰ってきてくれなかったし。＜ ああ、行ったら、＜ 乗せて貰えたかなあ。□	(324) 1年→二年 (325) 貰えた→もらえた
〔分岐6／A〕 私は、もう一度座り込んで深呼吸した。＜ あのコはまだ、飛べるはず、ない。＜ まっくとタタミの上のどこかに＜ いるはずだ。＜ 私は、腹這いになって、＜ 食い入る様にタタミを睨んだ。＜ タタミの縁の黒いところで何かが＜ すずっと動く。□	(326) タタミの上→部屋 (327) タタミ→床 (328) [床の端で何かがすずっと動く。] 改竄 それに伴い一行削除

本 文	変更点
黒光りする身体、◁ 忙しげに動くアンテナ・・・◁ 間違いない。◁ ゴキブリ!!◁ いやあああああああっ! ◁ 虫は嫌い!!◁ クモも毛虫も嫌いだけど、◁ ゴキブリは一等嫌いっ!□	
常備している殺虫剤の缶を掴んで◁ スプレーしかけて、手が止まった。◁ カピっ!!◁ ゴキブリの向こうにカピがいる。◁ そっか、タミの縁の上だから◁ 見えてなかったんだ。◁ でも、困った。□ スプレーしたら、◁ カピにもかかっちゃうよ。◁ あうっ、ゴキブリのばかぁ、◁ カピに近寄るなぁぁ〜っ! ◁ 何かっ、何かない?◁ 私は手近にあったタオルを投げた。◁ ゴキブリは方向転換して、◁ ドアの隙間から外へと逃げて行った。□	(329) [私は常備している殺虫剤の缶を掴み、] [A. ゴキブリ目掛けてスプレーした。◁] [B. ゴキブリの動きを追った。□] [A 殺虫剤がゴキブリに浴びせられる。◁] [「えい、どうだ!」□] [逃げ去るゴキブリを追っていた私は、次◁] [の瞬間、思わず手を止めた。◁] [ゴキブリの向こうにカピがいたのだ。◁] [カピっ!!◁] [ゴキブリにばかり目が行って、気づかな◁] [かった。◁] [殺虫剤がカピにもかかってしまった!□] [カピはバタバタと もがいている。◁] [カピ〜ッ!・・・・・・□] ★BADENDへの選択肢が増えている。 ★大幅な加筆、改竄(14行加筆) ★描写の視点の違う文章が混じる(下線部分)
やった、カピちゃんセーフ! ◁ 私はカピを急いで拾い上げて、調べた。◁ 良かった、どこもかじられてない。◁ ゴキブリは針金でも食べてしまう悪食で◁ なんでも食べるんだよ。◁ かじられてたらどうしようって、◁ 泣きそうになっちゃったんだから。□ ごめんね、カピ。◁ 怖かったでしょ?□	[B 私はタイミングを見計らった。◁] (330) [「よし、今だ!」◁] [しかし、次の瞬間、スプレーしかけた手◁] [が止まった。□] [カピっ!!◁] [ゴキブリの向こうにカピがいる。◁] [ゴキブリにばかり目が行って、気づかな◁] [かったのだ。□] [でも、困った。□] ★分岐が追加され、本文と語調の違う書き下ろし文が追加されている
[分岐7/A] でも、まだ朝早いし、◁ 今掛けたら、非常識だよね。◁ まずは自分で対処しなくっちゃ。◁ やるしかないよね。◁ 私はカピを箱に戻して、家を出た。□	(331) 選択肢重複の為二行削除
夕方だったら、ここに蚊柱◁ たってるんだけどな。◁ アパートの前の街灯を見上げたら、◁ 朝日がまぶしくて、◁ くしゃみが出ちゃった。◁ 一所懸命に捜し回ったら、◁ 公園で何匹か見つけた。◁ でもなかなか捕まらないの。□	(332) <u>アパート</u>→<u>マンション</u>
手でぱんって挟むの、難しいんだから。◁ 苦勞して、やっと一匹捕まえた時には、◁ 手がハレてた。◁ 一時間近くかかって、成果は一匹。◁	(333) <u>ぱん</u>→<u>パン</u> (334) <u>一時間</u>→<u>1時間</u>

本文	変更点
とにかく、カピのところへ戻ろう。□	
早速ピンセットで摘んで、△ カピの口許に持っていった。△ 食べない。△ ほれ、カピ、蚊だよ、食べないの？△ 口に入れたら、吐き出した。△ なんで？△ 蚊の種類が違うのかなぁ。△ 生きてないとダメとか。□	(335) <u>いった</u> → <u>行った</u> (336) <u>なんで</u> → <u>何</u> で
・・・もうお手上げだわ。△ やっぱりコウタ君に電話しよう。△ RRRRRRRRRRRRRRRRRRRR・・・△ 家の人が出た。△ コウタ君、もう学校行っちゃったって。△ 遠慮せずにさっさと電話△ しとけば良かった。△ 仕方ないや、行こう、学校へ。□	(337) 改行→改ページ
コウタ君はすぐに見つかった。△ 同じ学年同じクラスだと、△ 取ってる科目もみんな同じだから、△ 私みたいに休んでなきゃ、△ ちゃんと捕まる。□	
カピがミルクを飲まないこと、△ 蚊をやっても食べなかった事を話すと、△ コウタ君、腕組みしたまま聞いていて、△ 鼻の頭を掻いた。△ あれ？なんか困ってる？△ 「今すぐ、家に一緒に行くよ。△ ○その前に部室に寄るから△ ○校門のところで待ってて」□	(338) <u>こと</u> → <u>事</u> (339) <u>なんか</u> → <u>何か</u> (340) 今すぐ、「 <u>君の</u> 」家に
そう言って、クラブ棟の方へ△ 走っていった。△ え？学校サボってくれるんだ。△ カピの為に。△ ありがとう、コウタ君。△ ウルTRASPECIALいい人だね。□	(341) <u>いった</u> → <u>行った</u>
私が校門に着くか着かないかのうちに、△ コウタ君、鞆を持って追いついてきた。△ カピをこんなに長いこと△ 独りにしたことがないのが、気掛かり。△ 早く戻ろう。□	(342) <u>こと</u> → <u>事</u>
〔分岐8／B〕 「ダメ・・・私、出来ないよ」△ 目から涙が、ぼろぼろあふれてきた。△ 「甘えるな！」△ コウタ君、本気で怒ってる。△ 目がマジだもん。△ でも、だって、△ 無理なものは無理だもん。△ 怒るなんてヒドイよ。□	(343) 選択肢と重複の為一行削除 (344) 改行→改ページ

本文	変更点
どうして判ってくれないの？＜ 悲しくって＜ 涙が止まらなくなっちゃった。＜ 「・・・帰る」＜ すくっと立ち上がって、＜ 泣き続ける私に背を向けた。□	
「これは置いておくから」＜ それだけ言い残して、＜ コウタ君は帰ってしまった。＜ 目を上げると、ピンセットと割り箸、＜ そして虫のケースが＜ 新聞紙の上に拡げてある。□	
コウタ君、私のこと、＜ 呆れちゃったんだろうな。＜ 泣き虫の弱虫だって、きっと思ってる。＜ もう来てくれないかな。＜ コウタ君に見捨てられちゃった・・・。＜ ひざを抱えて、手の甲で涙をぬぐう。＜ くすん。□	(345) <u>こと</u> → <u>事</u>
そのまま鼻をすすって丸まっていたら＜ だんだん落ち着いてきた。＜ 「カピカピカピカピカピ・・・」＜ そうだ、カピ。＜ お腹空かせてるんだ。＜ 一所懸命に鳴いて、知らせてる。＜ 「カピの親は君だ」＜ コウタ君の言葉が耳に蘇る。□	(346) 改行→改ページ
私にご飯あげないとカピは死んじゃう。＜ カピが死んじゃうのは嫌。＜ 絶対、嫌だっ！＜ 虫の皮剥くのとどっちが嫌なんだろう？□	
比べるまでもない。＜ カピ、大事だもん。＜ 大事な家族だ。＜ ・・・やっぱり、やるしかないよね。＜ やってもみないで、出来ないなんて、＜ 私らしくないもん。＜ ・・・やってみよう。□	
〔分岐9/A〕 ルミちゃんに相談してみよう。＜ 何かいい方法、＜ 考えてくれるかも知れない。＜ 「もしもし。あ、ルミちゃん？＜ ○あのさ、ペット運ぶ時って、＜ ○ルミちゃんちの場合、どうしてる？」□	(347) [ルミちゃんなら、] 何かいい方法、／挿入
「うち？えっとね、＜ ○犬用の手提げバスケット使ってるよ。＜ ○ペットショップで買ったやつ。＜ ○マイちゃん、今度は何なの？」＜ 私は、帰省すること、その時にカピを＜	(348) <u>こと</u> → <u>事</u>

本文	変更点
どうやって運ぶか悩んでる事を話した。□ 「うーん、コウモリは知らないけど、◁ ○小さな生き物ほど、温度差に◁ ○敏感だって聞いたことあるわ。」◁ 「私もそれ、聞いたことある。◁ ○みんな、どうしてるのかな？」□ 「やっぱり運搬専用ケースとか、◁ ○あるんじゃないかしら？◁ ○でも、きっと高いわよ。◁ ○お小遣いじゃ買えないと思う」◁ そっかあ、ケースは諦めた方が◁ よさそうね。◁ 「じゃあ、それ以外に何か方法◁ ○ないかな？」□ 「ごめんね、マイちゃん。◁ ○今回はお役に立てそうもないわ。◁ ○コウタ君に相談した方が◁ ○いいんじゃない？」◁ 「うん、判った」◁ ルミちゃんにお礼を言って、◁ 電話を切った。◁ さて。□ 〔分岐10/A〕 まあ、いいか、一晩くらい。◁ 折角コウタ君が、まかせとけて◁ 言ってくれたのに、電話掛けたら、◁ 失礼だよな。◁ 気を悪くするかも知れない。◁ うん、コウタ君の厚意を無にしちゃ、◁ バチ当たるわ。□ 今夜は、お母さんとゆっくり、◁ 女同士で話し込もうっと。◁ お母さんの部屋で、肩をたたいたり、◁ おしゃべりしてたら、あっと言う間に◁ 真夜中。◁ 翌日の法事は、足のしびれと◁ 欠伸をかみ殺すのに必死で、◁ 座ってるのが精一杯。□ お経って、なんであんなに長いんだろ？◁ ほとんど頭に残ってないけど、◁ ちゃんと仏壇拜んだから、ご先祖様、◁ 怒ってないと思う。□ 昼食を済ませてから、実家を出た。◁ アパートに着いたら、◁ すぐコウタ君に電話しなくっちゃ。◁ そうだ、コウタくんに、◁ 何かお土産買って帰ろうかな。◁ いつもカピの事で、◁ お世話になってるしね。□	(349) <u>こと</u>→<u>事</u> (350) <u>こと</u>→<u>事</u> (351) <u>よさそう</u>→<u>良さそう</u> (352) <u>改行</u>→<u>改ページ</u> (353) [さて、次は・・・◁] [コウタ君に電話してみよう！□] 改竄 (354) 選択肢重複の為削除 (355) <u>改行</u>→<u>改ページ</u> (356) <u>改行</u>→<u>改ページ</u> (357) <u>欠伸</u>→<u>アクビ</u> (358) [ほ] 挿入 □ ほとんどは一つの単語なので [ほ] 削除 □ バラされるのは不本意 (359) <u>アパート</u>→<u>マンション</u>

本 文	変更点
駅の売店に立ち寄った。◁ あんまりお土産らしい物がない。◁ この辺、特産品ないもんね。◁ あ、動物柄のバンダナ！◁ これで、いいや。◁ バンダナの吊ってあるコーナーに◁ 近寄ったら隣の玩具のコーナーの◁ ヌイグルミが目についた。□	
あはっ、コウモリのヌイグルミだぁ！◁ よし、カピにもお土産、買ったげよう。◁ 二つを別々に包んで貰って、◁ 改札口に向かった。◁ 帰りも連絡が良くって、◁ 夕方にはアパートに到着。◁ さぁ、コウタ君に電話しよう。□	(ソ) 貰って、平仮名に開かず残っている (360) 改行→改ページ (361) 一行削除／線路と電車の走行音 S E (362) 「夕方には無事マンションに到着。◁」に改竄
RRRRRRRRRR・・・◁ 「もしもし、コウタ君？ただいま！◁ カピ、おとなしくしてた？」◁ 「お帰り・・・」◁ 何？この暗い雰囲気。◁ 「あの、カピに何かあったの？」◁ 急に不安になって、慌ててきた。◁ 「いや、とても元気だった・・・けど」□	(363A) きいた→聞いた (363B) 改行→改ページ
「けど、何なの？」◁ 「うん、元気過ぎて、◁ ○飛んでっちゃったんだ。◁ ○昨日の夜にね」◁ 「飛んだって、◁ ○巣立ちしっちゃったってこと？」□	(364) こと→事
「ごめん、まさか飛ぶなんて思って◁ ○なくて、窓閉めてなかったんだ。◁ ○本当にごめん、僕の不注意だ」◁ 「ひどいよ、私、カピの巣立ち、◁ ○楽しみにしてたのに」◁ 「判ってるけど、仕方なかったんだ。◁ ○誰にもいつ巣立つかなんて、◁ ○判らないんだから」□	
「そんなの知らない！私、◁ ○カピにさよなら言っていないんだよ。◁ ○どうして逃がしちゃったの、◁ ○ひどいよ」◁ 「・・・だから、悪いのは僕だって◁ ○言ってるじゃないか！」◁ 「それが謝ってる態度？」◁ 勢いで言ってしまった。□	(365) 改行→改ページ
「・・・君がそういう人だとは◁ ○思わなかったよ。◁ ○今回のことは本当に謝る。◁ ○でも、もう電話は◁ ○掛けてこないでくれ」◁ 「逃げるんだ、卑怯者！」◁	(366) こと→事 (367) 改行→改ページ (368) 「「逃げるの？卑怯者！」◁」に改竄

本 文	変更点
ガシャッと電話が切れる音がした。□	
売り言葉に買い言葉で、＜ かなりひどい事、言っちゃった・・・＜ マジで怒ってたよ、あの声。＜ あそこまで言うつもり、＜ なかったのにな。＜ でも、私、＜ 本当に怒っちゃったんだもん。□	
もういい、コウタ君なんか知らない。＜ カピだって、私のこと、裏切ったんだ。＜ あんなに可愛がってあげたのに！＜ バカバカバカバカっ！！＜ みんな嫌い。＜ お土産に八つ当たりして、＜ ゴミ箱に投げ込んだ。□	(369) <u>こと</u> →事
翌日からは、コウタ君に会うのが嫌で、＜ 自主休講を続けた。＜ 前期試験で仕方なく登校した時も、＜ 気まずくって、ずっと避けたし。＜ コウタ君とは、それっきり＜ 口をきくこともなくなっちゃったよ。＜ 私の学生生活は、カピを拾った為に、＜ もう、めちゃくちゃ。□	(370) <u>きく</u> → <u>聞く</u> (★聞くは誤字)
もう二度と、＜ コウモリなんて拾うもんか！□ 【BAD END】	
〔分岐II/A〕 「判った。コウタ君の言う通りにする」＜ あんまりワガママ言ったら、コウタ君、＜ 困るよね。＜ 私、何も出来ないんだし。＜ だいたい、帰る手段が無いもん。＜ 駅まで行くバス、もう終わっちゃった。□	
「明日の夕方まで、申し訳ないけど、＜ ○カピの事、よろしくお願いします」＜ 「判った。＜ ○明日ちゃんと病院に連れて行くから。＜ ○じゃあ、僕はカピのところに戻るよ」＜ そそくさと電話、切っちゃった。＜ 仕方ないよね、カピの事、＜ 心配してくれてるんだ。□	(371) 改行→改ページ
・・・カピ、大丈夫なのかな。＜ 死んじゃったら、どうしよう？＜ 駄目よ、マイ。＜ 悪い事考えると、現実になるって＜ 言うじゃない。＜ いい事だけ、考えなきゃ。＜ きっと大丈夫。＜ だって、コウタ君がついてるんだもん。□	(372) 改行→改ページ

本文	変更点
翌日は法事を済ませて、すぐに実家を< 出たのに、バス停で時間くっちゃった。< 昼間はバスの本数が少なく、< なかなか来ないのよね。< ここってつくづくヘンピなんだ。< 電車を乗り継いで、帰り着いたのは、< やっぱり夕方。< 早く出た意味、なかったかも知んない。□	(373) 改行→改ページ
公園の角を曲がって、< アパートへと急ぐ。< あれ？コウタ君？< 来てくれたんだ！< いつもは部屋の前なのに、< 今日は階段の下に立ってる。< どうしたんだろ？< あ、こっちに気がついたみたい。□	(374) <u>アパート</u> → <u>マンション</u>
私は手を振って駆け寄ろうとした。< え？なんで？< コウタ君、手に持ってた箱を足元に< 置いて、逃げるように走り去った。< 思わず、立ち止まって、< 見送ってしまった。< 人違いだったのかな。< ううん、あれ、コウタ君だよ。□	(375) <u>なんで</u> → <u>何</u> で (376) <u>よう</u> → <u>様</u>
何が起こったんだろ？< 首をかしげながら、階段の下に近づいて< 足元を見た。< これって・・・< カピのおうち！< 封筒が蓋に貼りつけてある。< 宛て名は、藤峰マイ様。< 中には便箋が2枚。□	(377) <u>2枚</u> → <u>二枚</u>
やっぱり、さっきの、< コウタ君だったんだ。< 私は部屋に入るのも忘れて、< その場で手紙を読み始めた。< 「マイちゃんへ。< ○ごめん、合わせる顔がないので、この< ○手紙を書く。□	(378) 改行→改ページ
○どうか、気を落とさないで、読んで欲< ○しい。< ○君からの電話を切って、部屋に戻った< ○ら、カピは、既に死んでいた。< ○箱の中には、アルコールで拭いて清め< ○たカピを布にくるんで入れてある。< ○箱ごと、埋葬してやってくれ。□	(379) 改行→改ページ
○僕を信じて預けてくれたのに、こんな< ○事になってしまって、本当に申し訳な< ○い。< ○君がどんなにカピを可愛がっていたか< ○判っているつもりだ。<	(380) カピは、 <u> </u> の「 <u> </u> 」削除(正誤表で入れる様、指示済)

本文	変更点
○その君に直接計報を伝える勇気が僕に< ○はなかった。許して欲しい。< ○○○○○○○○○○○○○○○○○○コウタ」□	
何、これ？< 書いてある事、頭が真っ白になって、< 理解出来ない。< なんて、なんて書いてあった？< カビが、死んだ？< ・・・信じられないよ。□	(381) <u>なんて</u>、<u>なんて</u>書いて→<u>何</u>て、<u>何</u>て書いて
これはきっと、悪い夢。< 早く、醒めなきゃ。< ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・< ・・・醒めない。< 夢じゃないの？□	(382) 一行削除
じゃあ、きっとコウタ君の< タチの悪い冗談なんだ。< きっと、そう。< カビが死んだなんて、嘘に決まってる！□	
部屋に戻った私は、怖くなって、< 箱の中身を見ないまま、< 食器棚の上にあげてしまった。< きっと、カビはどこかで生きてるもん。< カビが帰ってきたら、< 又、この箱、使うんだ。□	
手紙は、気味が悪いので、焼き捨てた。< コウタ君にも、電話しない事にした。< カビが死んだなんて言われたら、< 嫌だもん。□	
・・・そういや、冷蔵庫の虫、そろそろ< 残り少なくなってきてたな。< 新しいの、ペットショップで< 買ってこなくっちゃ。< カビ、早く戻ってきてね。< いつでも『すぶらった』の用意、< してあるから。□ 〔BAD END〕	
〔分岐12/A〕 寄った方がいいよね。< ばたばたしてたから、まだタンクとか< ちゃんと見てないし。< 満タンにしといたら安心だもん。< 交差点でUターンして、< スタンドにバイクを着けた。< 他にお客さんいなくて、ラッキー。< これなら、そんなに時間かかんない。□	↑ (383) 選択肢と重複の為一行削除 (384) [満タンにして、国道に戻った。<] [もう道もかなり平坦。<] [遅れた分、取り戻さなくっちゃ。<] [カビ、待ってて！□] ※分岐12/Bの本文より4行転用し、 分岐12/A全面削除
手袋のジッパーを上げて、< スタンドを後にした。< ・・・カビ、待ってて。< もうすぐ会えるよ。<	↓

時々、メットにコンッって<
石みたいなのが、当たり始めた。<
カナブンさん、体当たりは痛いよ。□

虫が多いってことは、<
山が近くなってきたんだよね？<
うん、電気の点いてる家、<
少なくなってきた、暗いや。<
・・・こんな夜中に私、走ってるよ。<
なんか、不思議よね。<
私が、こんな冒険してるなんてさ。□

カピと出会ってなかったら、<
夜中の峠越えなんてこと、<
絶対しなかったと思う。<
でも今やってるんだ。<
カピに会う為に。□

そろそろ道が上りになってきた。<
気を抜かないように、頑張らなきゃ。<
周りは森に囲まれて、真っ暗。<
こんなところでエンジン止まったら、<
立ち往生よね。<
ユーレイ出てきたら、どうしよう？<
あん、変なこと想像するの、<
止め、止め。□

余計に怖くなっちゃうよ。<
魔女なら会ってみたいけど、<
ユーレイは見たくもない。<
どっちもいるって信じてるから、<
こんなこと悩まなきゃいけないのよね。<
それより、ここ、<
国道のクセに外灯ついてないじゃない。<
なんで？□

ガードレールに反射する<
バイクのライトだけが頼り・・・<
これは、あんまりだよ。<
道がどう曲がってるのか判んないから、<
ハンドル切るのが遅れちゃって、困る。<
まるで、屋内型のジェットコースター。<
夜の山道が、こんなに怖いなんて<
知らなかった。□

さっきも、<
いきなり目の前の道がなくなって、<
急カーブが始まるんだもん。<
心臓、止まるかと思った。<
なんとか曲がりきれて、<
セーフだったけどさ。□

カーブの連続を抜けたら、峠に着いた。<
何にもなくて薄暗い道端に<
電話ボックスだけが、<
ぼうっと光って立ってる。<
ちょっと休憩した方がいいかな？□

↑分岐12/A全面削除

ううん、急ごう。◁
休んでるヒマなんてないもん。◁
ちょっとでも早く行かなきゃ。◁
電話ボックスの横を走り抜けて、◁
そのまま下り坂に入った。◁
3つ目のカーブを曲がったら、◁
目前にアスファルトを横切る◁
黒い帯が見えた。□

あ、水。△
思った時には、後輪が滑り始めてた。△
ハンドルがうまく切れない。△
どんどん外に膨らんで、△
ガードレールが迫ってくる！△
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○△
キキキキキキキキキキキィ〜ッ△
べしゃ。□

・・・転んじやったけど、止まった。△
膝をついて立とうとするけど、△
力、入んない。△
腰、抜けてるよお。△
怖かった。△
心臓がばくばく言ってて、息が苦しい。□

握りしめたまま固まった手を<
ハンドルから外す。<
うわぁ、手袋の中も汗かいてるよ。<
這ったまま、ガードレールの外を見たら<
「うっわぁ……………」□

崖！△
ガードレールにぶつかって、△
飛び出してたら……。△
死んでたわ、これ。△
間に合ってよかった。△
ブレーキがぎりぎりのところで△
効いたんだ。□

・・・ヒロ兄い、ごめんね。◁
こかしちゃったよ、バイク。◁
やっと起き上がれる様になって、◁
見たら、左のミラーが割れてた。◁
ウィンカーも左側、おシャカ。◁
あああ、カウルもボコボコだ。◁
でも、エンジンはかかる。◁
良かった。□

冷や汗でぐっちょり湿った手袋を<
はめなおして、又、走りだした。<
カピ、待ってて！□

カビは、いつものアパートに＜
安心したのか、震えが止まったみたい。＜
でも、やっぱり元気がない。□

↑ 分岐12/A全面削除

↓ 削除ここまで

(385) アパート→マンション

頑張れ、カピ！＜
もう少しで、朝だよ。＜
朝になったら、病院行けるからね。＜
それまでの辛抱だよ。＜
ずっと私、側にいるよ。＜
ほら、コウタ君も、ついててくれる。＜
だから、きっと大丈夫。□

「カピ、大丈夫だよな？」＜
「今は見守るしかないよ。＜
○一緒に見守ろう」＜
コウタ君がいてくれて、＜
ほんとに良かった。＜
私、自分で気づいてなかったけど、＜
コウタ君をずっと＜
心の支えにしてたんだ。□

空が白むまで、二人でカピを見守った。＜
カピの動きがだんだん＜
弱々しくなってきた。＜
カピ、死なないで。＜
お願い、私を置いていかないでよ！＜
・・・急に静かになった。□

「カピ、ほら、もう朝だよ。＜
○病院、行こう！＜
○眠っちゃったの、カピ？」＜
たまらなくなつて、叫んだ。＜
カピは全く、動かない。＜
コウタ君の顔を見た。＜
目を閉じて、首を横にふる。□

・・・嘘！＜
カピ、死んじゃやだ！＜
ねえ、カピ、＜
お前、眠ってるだけだよな？＜
「ねえ、起きてよ、カピってばっ！」＜
私はカピを手にとって、＜
揺すってみた。□

「・・・カピは死んだんだ、＜
○判ってくれ」＜
コウタ君の両手が、私の手を、＜
カピごと優しく包み込んだ。＜
あったかい手。＜
なのに、どうして、手のひらのカピは、＜
どんどん冷たくなっていくの？＜
いきなり、目から涙が溢れだした。□

(386) いくの→行くの

「カピ・・・ほんとに、死んだの？」＜
「ああ」＜
「私のせいだ。私が出掛けなかったら、＜
○こんな事にならなかったんだ。＜
○カピ、ごめんね。＜
○あんなに苦しんでたのに、私、＜
○なんにも出来なかった・・・＜
○ごめん、カピ」□

本 文	変更点
「いや、君のせいじゃない。◁ ○誰のせいでもないんだ。◁ ○これがカピの寿命だったんだ。◁ ○もし君が拾わなかったら、◁ ○カピの寿命はもっと短かった。◁ ○それが自然なんだよ。◁ ○ここまで育てただけでも、◁ ○カピは運が良かったんだ。□	
○マイちゃん、◁ ○自分を責めないでくれよ」◁ コウタ君、私の肩を掴んで、◁ 一所懸命、慰めてくれた。◁ 「・・・カピ、運が良かった？◁ ○ほんと？」◁ しゃくりあげながら、きいた。◁ 「ああ、そうだ」□	(387) きいた→聞いた
「でもっ、でもっ、こんなお別れ、◁ ○あんまりだよ。◁ ○いままでずっと一緒だったのに。◁ ○いきなり居なくなっちゃうなんて、◁ ○耐えられないよ！」◁ ぽっかりと胸に◁ 穴があいちゃったみたいだ。□	(388) いままで→今まで
それがつらくて、◁ 又、涙がこぼれてきた。◁ 「・・・僕がいるよ。大丈夫、◁ ○ずっと側にいるから」◁ コウタ君・・・◁ 私が思いっきり泣いてる間、コウタ君は◁ 黙って横についててくれた。◁ その優しさが無性に嬉しい。□	
カピ・・・◁ お前が天国に行っちゃって、◁ 今はつらいけど、◁ きっと笑って思い出せる日が来るよ。◁ だって、コウタ君がずっと◁ 側に居てくれるって言ったもん。◁ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○◁ 大丈夫に決まってる。□ 〔END〕	(389) 一行削除（余韻の演出なし）

(396) 正式タイトル『毎日がすぶらった』が、
ケース裏面の印刷物と同封冊子内 → 『毎日がスプラッタ』
ゲーム表示画面上及びオープニングムービー内 → 『まいにちがすぶらった!』に改竄されている